



ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
 SAN'IN ダイバーシティ推進ネットワーク
 ~多様な力で地域の未来をつくる~

SAN'IN ダイバーシティ推進ネットワーク

年次報告書

令和元年11月1日~令和3年3月31日

ダイバーシティを
山陰全体に波及

多様な力で地域の
未来をつくる



人とともに 地域とともに
 国立大学法人
島根大学



公立大学法人
島根県立大学



独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校
 National Institute of Technology, Matsue College



独立行政法人 国立高等専門学校機構
米子工業高等専門学校
 National Institute of Technology (KOSEN), Yonago College



はじめに

島根大学(代表機関)、島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校は、2019年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に採択されました。本事業の実施に当たり、代表機関である島根大学と、共同実施機関である島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校は、地元企業や自治体、病院等で構成される協力機関と共に「SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク」を組織し、連携して、ダイバーシティ研究環境整備強化、女性教員の積極採用と上位職登用、女性研究者の裾野拡大、女性研究リーダー育成に取り組んでおります。

本事業は開始1年目から新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大きな影響を受けました。2020年3月に予定していたキックオフシンポジウムをはじめとする数々の取組計画がそのままの形では実施不可能となったため、オンラインでの開催に切り替えるなどの工夫をして実施してまいりました。

1年目はコロナ禍の影響で計画していた意識啓発や交流のためのイベントの延期が余儀なくされるなどしましたが、代表機関に所属する女性研究者がリーダーとなる共同研究を促進することを目的とした研究費助成事業の採択件数は11件に上り、共同研究者として4機関全ての研究者が参画する事業となりました。2年目には、連携機関間の研究者のマッチングを促進するために研究マッチングイベントをオンラインで2回実施しました。これらのイベントによって、研究者同士、あるいは研究者と地元企業という組み合わせでのマッチングが計9件成立し、うち2件は女性研究者がリーダーとなる共同研究の成立に繋がりました。松江工業高等専門学校と米子工業高等専門学校にも同事業の導入を行い、3機関の女性研究者がリーダーとなる共同研究合計11件に研究費の助成を行いました。そして、1年目に実施できなかったキックオフシンポジウムについては、2020年7月に対面・オンラインを併用して開催することができ、山陰地域だけでなく全国各地からの参加を集め、本事業の取組内容や基調講演テーマの「無意識のバイアス」についての理解を広く発信することができました。また、女性研究者同士のネットワーク形成のためのイベントである「SAN' INご縁ネットミーティング」やダイバーシティ推進に関する意見・情報交換の場である「さぼっとカフェ」も全面オンラインで実施することによって、イベントの目的達成と感染拡大対策の実施の両立を図ることができました。

本年次報告書は、島根大学を代表機関として実施したダイバーシティ事業の取組内容と成果をまとめたものです。本事業の取組を広く知っていただき、ダイバーシティ推進について考えていただく一助となれば幸いです。本事業が、山陰地域全体に対してダイバーシティ推進の波及効果をもたらしつつ、今後も発展拡大していくことができますよう、今後とも皆様の一層のご支援とご協力を賜りたく存じます。どうぞよろしく願いいたします。

島根大学ダイバーシティ推進宣言

島根大学は、島根大学憲章に基づき、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努めており、今後、島根大学が「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」としてさらに飛躍するためには、教育、研究、就労の場におけるダイバーシティ(多様性)の推進が必要です。

多様な価値観や生き方を尊重する学内文化を醸成し、構成員一人ひとりの才能を活かしながら、教育研究活動を通じて地域社会に活力を生み出し、活力にあふれる地域の未来を先導する大学でありたいと考えます。

そこで、島根大学は以下の基本方針を掲げ、ダイバーシティを推進することをここに宣言します。

ダイバーシティ推進のための基本方針

1. 島根大学は、ダイバーシティ推進に対する意識を啓発し、本学の意思決定において、構成員の多様な意見が尊重されるよう環境整備に努めます。
2. 島根大学は、すべての構成員が個性と能力を十分に発揮できる教育・研究・就労環境を整備します。
3. 島根大学は、ダイバーシティ推進の視点に立った人的構成と人材育成を推進します。

令和元年6月6日

国立大学法人島根大学長

服 部 泰 直

目 次

I 事業概要・実施体制

事業概要	1
実施体制	2

II 実施内容一覧

III ダイバーシティ研究環境の整備強化

III-1. SAN' INダイバーシティ推進ネットワークの取組	9
III-2. 島根大学の取組	17
III-3. 島根県立大学の取組	21
III-4. 松江工業高等専門学校 of 取組	22
III-5. 米子工業高等専門学校の取組	26

IV 女性教員の積極採用と上位職登用

IV-1. SAN' INダイバーシティ推進ネットワークの取組	27
IV-2. 島根大学の取組	28
IV-3. 島根県立大学の取組	28
IV-4. 松江工業高等専門学校の取組	28
IV-5. 米子工業高等専門学校の取組	28

V 女性研究者の裾野拡大

V-1. SAN' INダイバーシティ推進ネットワークの取組	30
V-2. 島根大学の取組	32
V-3. 島根県立大学の取組	36
V-4. 松江工業高等専門学校の取組	36
V-5. 米子工業高等専門学校の取組	37

VI 女性研究リーダー育成

VI-1. SAN' INダイバーシティ推進ネットワークの取組	38
VI-2. 島根大学の取組	54
VI-3. 島根県立大学の取組	57
VI-4. 松江工業高等専門学校	57
VI-5. 米子工業高等専門学校	57

資 料

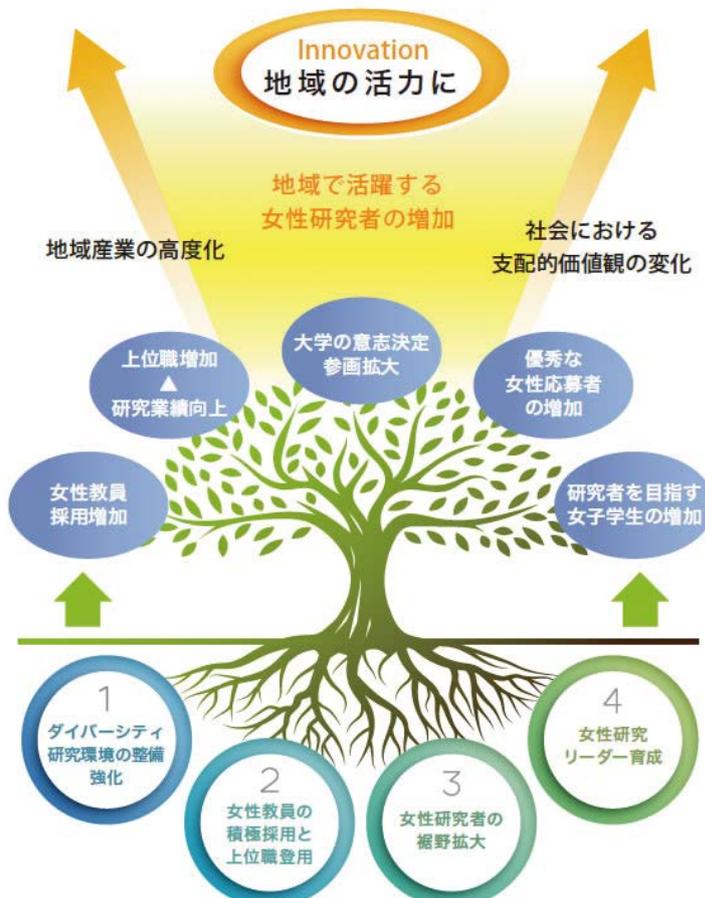
島根大学男女共同参画の状況	58
実施体制	60
沿 革	74

事業概要

島根大学は、令和元年9月、文部科学省の2019年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の取組機関に選定された。この事業は、女性研究者のライフイベントに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組、女性研究者の積極採用や上位職への積極登用など、女性研究者の活躍促進に向けた優れた取組を支援するものである。

事業の4本の柱

- 「1. ダイバーシティ研究環境の整備強化」
- 「2. 女性教員の積極採用と上位職登用」
- 「3. 女性研究者の裾野拡大」
- 「4. 女性研究リーダー育成」



実施体制

令和元年11月5日には、「SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク」を設立。これは島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校が連携し、協力機関の協力を得ながら、地域に根差しつつ国際的に活躍できる女性研究リーダーを持続的に育成し輩出する仕組みを構築するものである。また、これら4機関を中心として地域のステークホルダー間での対話を促進するとともに、本事業で得られた知見や成果を地域社会および全国に広く発信することで、活力にあふれる地域づくりを先導していくことを目指している。



ロゴマーク

次世代たたら協創センターとの協働

本事業では、平成30年度に採択された「先端金属素材グローバル拠点の創出—Next Generation TATARA Project—」（内閣府『地方大学・地域産業創生交付金』）の実施組織である「次世代たたら協創センター」と連携して取組を進める。世界最先端の知が創出される環境をダイバーシティの観点から補完することにより、研究生産性を高め、研究力を持続的に向上させることのできる研究拠点の形成を目指す。



全国ダイバーシティネットワーク認定証交付

令和2年12月14日、「全国ダイバーシティネットワーク組織『女性研究者活躍支援奨励制度』認定証交付式」がオンラインで開催された。

この交付式では、女性研究者活躍促進に向けた環境整備等に取り組む機関として、全国ダイバーシティネットワーク(OPeNeD)[※]に参画している全ての機関に対して認定証が交付された。認定証は、全国ダイバーシティネットワーク総括責任者である大阪大学総長から交付され、本学からはダイバーシティ推進室長の藤田達朗理事、副室長の河野美江学長特別補佐(男女共同参画担当)らが出席し、認定証の交付を受けた。

※全国ダイバーシティネットワーク(OPeNeD)男女共同参画社会や多様な個性・能力が尊重されるインクルーシブな社会の実現のために、文部科学省と連携して、大学や研究機関、企業等における女性研究者の育成や研究環境・研究力の向上を目指す諸機関をつなぎ、国内外の取組動向や参考事例(グッドプラクティス)を収集・公開し、全国的な普及・展開を図るものである。



実施内容一覧

令和元年度（11月～）

	事業・業務内容
11月	<p>5日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク設立会議</p> <p>6日 島根大学 ダイバーシティ推進室・大学教育センター・法文学部就職委員会共催 第90回さぼっとカフェ「私のキャリアパス、メンターと出会う」 島根大学 監事・お茶の水女子大学 名誉教授 篠塚英子氏</p> <p>14日 2019年度 第1回英語論文投稿セミナー（松江キャンパス・出雲キャンパス）</p> <p>16日 「しまね大交流会」出展</p> <p>18日 第11回中国四国男女共同参画シンポジウム「島根発、多様な人材活躍に向けて～大学、行政、企業の連携から探る～」 基調講演「地域を支える女性の力の未来」社会学者・東京大学 名誉教授 上野千鶴子氏</p> <p>21日 次世代たたら協創センターと女性研究リーダー育成に関する検討会</p> <p>26日 第37回SAN' INご縁ネットミーティングin出雲キャンパス 「肺癌患者を対象とした臨床試験について」 島根大学 医学部内科学講座 講師 津端由佳里氏</p> <p>27日 島根大学70周年記念事業 ロールモデル講演会 女性研究者としての歩み（キャリアパス）本学の卒業生を迎えて 「好きを仕事にするチカラ」大阪大学 大学院医学系研究科 准教授 香山尚子氏</p> <ul style="list-style-type: none"> • 女子学生ネットワークSUN' IN Girls 結成 • 女性研究者をリーダーとする共同研究プロジェクト支援事業で18件のプロジェクトを採択 • 研究サポーター配置希望者募集 • SAN' INダイバーシティ推進ネットワークNEWS LETTER Vol.01 発行
12月	<p>3日 島根大学 ダイバーシティ推進室・医学部附属病院ワークライフバランス支援室共催 第91回さぼっとカフェ in出雲キャンパス「ワークライフバランスについて」 島根大学 監事・お茶の水女子大学 名誉教授 篠塚英子氏</p> <p>11日 2019年度 第2回英語論文投稿セミナー（松江キャンパス・出雲キャンパス）</p> <p>15日 中高生向けの建築をテーマとしたサイエンスカフェ</p> <p>17日 第38回SAN' INご縁ネットミーティング 「認知から子ども理解を深める：授業のインクルーシブ化の条件と方法を考える」 島根大学 教育学部附属教師教育研究センター 講師 松尾奈美氏</p> <ul style="list-style-type: none"> • 研究サポーターの配置 • 大学入試センター試験における託児サービス利用者募集

1月	<p>15日 島根大学ダイバーシティ推進室主催 第92回さぼっとカフェ「2020年の目標決めワークショップ」</p> <p>20日 第39回SAN' INご縁ネットミーティング「光でモノをはかる」 長岡工業高等専門学校 電気電子システム工学科 准教授 竹内麻希子氏</p> <p>21日 女性研究者をリーダーとする共同研究プロジェクト支援事業による人間科学部全学オープン授業「MWEDO女子中学校での教育」 ナウエシ・イサヤ・リジワ氏(理科教諭)、ウィリアム・ビル・レムビレ氏(英語教諭)</p>
2月	<p>4日 島根大学ダイバーシティ推進室主催 第93回さぼっとカフェ「教職員・学生・地域の方との意見交換及び情報交換会」</p> <p>20日 第40回SAN' INご縁ネットミーティングin出雲キャンパス 「専門職連携教育(IPE)とは」 千葉大学 医学部附属病院総合医療教育研修センター 特任教授 朝比奈真由美氏 千葉大学大学院 看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 准教授 井出成美氏</p> <p>21日 島根大学 ダイバーシティ推進室・地域医療支援学講座共催、島根大学リハビリテーション部後援 第94回さぼっとカフェ in出雲キャンパス「患者中心の医療の充実のために」 千葉大学 医学部附属病院総合医療教育研修センター 特任教授 朝比奈真由美氏 千葉大学大学院 看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 准教授 井出成美氏</p>
3月	<ul style="list-style-type: none"> 「ロールモデル集vol.5 ～理系進路を選択した先輩女性からのメッセージ～」発行

令和2年度

6月	<p>9日 ダイバーシティ推進のためのアンケート調査実施</p> <p>12日 第41回SAN' INご縁ネットオンラインミーティング 「航空機ジェットエンジン用耐熱材料」 東京大学大学院 新領域創成科学研究科物質系 教授 御手洗容子氏</p> <p>27日 島根大学医学部学生ボランティア無料塾「てごほーむ」にてSUN' IN Girls による理系クイズ企画 ※オンライン</p> <p>2・15・23・30日 子育て学生オンラインランチミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> 異分野交流・連携プラットフォーム開設 若手女性研究者を対象とした科学研究費補助金獲得支援事業の募集 国際学術雑誌投稿支援事業の募集
----	---

7月	<p>8日 出前授業「中学生の心とからだ」島根大学 保健管理センター 教授 河野美江氏</p> <p>15・16日 科学研究費獲得支援セミナー 2020 (第1回) 島根大学 理事 (大学経営・財務、事務総括担当) 長澤公洋氏</p> <p>20・21日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク主催 第1回 研究マッチングイベント ※オンライン</p> <p>27日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク主催 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型) キックオフシンポジウム 基調講演「日本の社会・組織において、女性の活躍を阻むものとは？ —無意識の偏見をなくすために—」東洋大学 教授 北村英哉氏 ※オンライン</p> <p>30日 第42回SAN' INご縁ネットオンラインミーティング 「主体的学びの形成～コミュニケーション学からの視点から～」 島根大学 教育学部 准教授 香川奈緒美氏</p> <p>8・15・29日 子育て学生オンラインランチミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ2020年度 (牽引型) 島根大学女性研究リーダー育成支援事業 (プロジェクト創出型・共同研究型) の募集 研究サポーター配置希望者募集
8月	<p>3日 科学研究費獲得支援セミナー 2020 (第2回) 大妻女子大学 名誉教授 大澤清二氏</p> <p>29日 島根大学医学部学生ボランティア無料塾「てごほーむ」にてSUN' IN Girls による理系クイズ企画 ※オンライン</p> <p>5・12・19・26日 子育て学生オンラインランチミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ2020年度 (牽引型) 島根大学女性研究リーダー育成支援事業でプロジェクト創出型2件、共同研究型9件を採択 若手女性研究者を対象とした科学研究費補助金獲得支援事業で10件を採択 研究サポーターの配置
9月	<p>20日 島根大学医学部学生ボランティア無料塾「てごほーむ」にてSUN' IN Girls による理系クイズ企画 ※オンライン</p> <p>24日 第43回SAN' INご縁ネットオンラインミーティング 「液化化による住宅の傾斜被害が住人の健康状態に及ぼす影響」 松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 助教 芹川由布子氏</p> <p>2・9・16・30日 子育て学生オンラインランチミーティング</p>
10月	<p>14日 子育て教員座談会</p> <p>16日 島根大学 ダイバーシティ推進室・保健管理センター共催 公開授業「ジェンダー ～性を科学する～『多様な性と生』」 ※オンライン 山口県立宇部総合支援学校 教諭 今田真樹氏</p> <p>24日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク・島根大学イノベーション創出機構次世代たたら協創センター共催、奥出雲町後援 「奥出雲たたらツアー ～日本刀を生み出した自然資源～」</p> <p>31日 島根大学医学部学生ボランティア無料塾「てごほーむ」にてSUN' IN Girls による理系クイズ企画 ※オンライン</p> <p>7・14・21・28日 子育て学生オンラインランチミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> SAN' INダイバーシティ推進ネットワークNEWS LETTER Vol.02 発行 総合型選抜I「へるん入試」等における託児サービス利用者募集

11月	<p>7日 しまね大交流会出展 SUN' IN Girls による理系クイズ企画・理系進路相談会 ※オンライン</p> <p>16日 島根大学医学部えんネット地域医療支援学講座主催 ワークライフバランスセミナー 「ワークライフバランスの実現による幸せなキャリア形成」 ※対面・オンライン 株式会社Woman's 代表取締役 宮崎結花氏</p> <p>18日 島根大学 ダイバーシティ推進室・地域医療支援学講座共催 第95回さぼっとカフェ in出雲キャンパス ※対面・オンライン 「健康の社会的要因 (SDH) を可視化する」 京都大学大学院 医学研究科医学コミュニケーション学分野 准教授 岩隈美穂氏 4・11・18・25日 子育て学生オンラインランチミーティング ・島根大学研究助成情報検索システムRegiSU (レギス) 運用開始</p>
12月	<p>4・8・11日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク主催 「英語論文の書き方セミナー 基礎編」 理化学研究所 創発物性科学研究センター 小野義正氏 ※オンライン</p> <p>10日 第45回SAN' INご縁ネットオンラインミーティング 「混合研究法：質的研究についての基礎と量的研究との素敵なマリアージュ」 京都大学大学院 医学研究科医学コミュニケーション学分野 准教授 岩隈美穂氏</p> <p>15日 令和2年度 第1回SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議</p> <p>24日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク主催 女性研究者キャリアトーク「女性研究者としての生き方・働き方」 ※オンライン 島根県産業技術センター 生物応用科 主任研究員 秋吉渚月氏 島根大学 生物資源科学部生命科学科 准教授 児玉有紀氏 2・9・16・23日 子育て学生オンラインランチミーティング ・大学入学共通テストにおける託児サービス利用者募集</p>
1月	<p>18日 島根大学 国際交流センター・ダイバーシティ推進室共催 「第1回オンライン英語カフェ」</p> <p>21日 令和2年度島根大学研究倫理セミナー</p> <p>25・27・29日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク主催 「英語論文の書き方セミナー 応用編」 理化学研究所 創発物性科学研究センター 小野義正氏 ※オンライン</p> <p>13・20・27日 子育て学生オンラインランチミーティング ・国際学術雑誌投稿支援事業で3件を採択</p>
2月	<p>9日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク主催 「組織のマネジメント力向上のためのオンラインセミナー」 広島大学 特任教授 学長特命補佐 (研究人材育成担当) 相田美砂子氏</p> <p>18日 第46回SAN' INご縁ネットオンラインミーティング 「小学校外国語教育の現状と課題 ―子どもと教職志望学生の学びの可視化の試み―」 島根大学 教育学部英語科教育専攻 講師 篠村恭子氏</p> <p>22日 出前授業「中学生の心とからだ」島根大学 保健管理センター 教授 河野美江氏 3・10・17・24日 子育て学生オンラインランチミーティング</p>

3月	15・16日	SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク主催、島根県後援 第2回 研究マッチングイベント ※オンライン 特別講演「異分野融合の意味と意義」(15日) 京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授 宮野公樹氏
	23日	公開講座「ミャンマーにおける保健医療アクセス向上に挑む ～国際的に活躍する女性 ロールモデル～」 ※オンライン 特定非営利活動法人AMDA社会開発機構 山上正道氏 中外製薬株式会社 渉外調査部 原田亜弥氏
	23日	SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク主催 オンラインセミナー 「人が育つコミュニケーション・場作りを考える ～ファシリテーションの役割～」 島根大学 教育・学生支援機構大学教育センター 准教授 岩瀬峰代氏
	26日	第47回SAN' INご縁ネットオンラインミーティング 「高専における非専門科目の科目横断授業実践と学生への影響について」 米子工業高等専門学校 教養・教育科 講師 原田桃子氏
	3・10・17・24日	子育て学生オンラインランチミーティング ・「ロールモデル集vol.5 英語版」発行・配布 ・「若手女性研究者の育成を推進するグッドプラクティスQ&A集」「多様な研究者を採用 するために～研究者採用ガイド～」「島根大学女性教員メンタープログラムガイド」発 行・配布

III

ダイバーシティ 研究環境の整備強化

III-1. SAN' INダイバーシティ推進ネットワークの取組

◎ SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク設立

令和元年11月に代表機関、共同実施機関、協力機関の委員で構成するSAN' INダイバーシティ推進ネットワーク設立会議を実施し、SAN' INダイバーシティ推進ネットワークを発足させた。令和2年度はSAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議を1回、同運営委員会を2回開催し、本事業の進捗状況の共有や今後の事業展開の方向性や具体的な取組内容について議論を行った。令和2年度にはSAN' INダイバーシティ推進ネットワーク協力機関に新たにSUSANOO、松江市立病院、松江生協病院が加わり計8機関となった。

◎ ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)キックオフシンポジウム

「ダイバーシティ研究環境実現に向けて—多様性を活かして、ひとり一人が輝く未来へ!—」

【日 時】令和2年7月27日(月) 15:00~17:30

【場 所】島根大学 松江キャンパス 大学ホール ※オンライン開催

【主 催】SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク

今回のシンポジウムは、SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議の連携4機関である島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校、島根大学の主催で開催され、当日は地元企業、ダイバーシティ事業に取り組む他大学など70名を超える参加者が集まった。

はじめに、本事業を遂行するにあたり、どのような課題があり、どのように立ち向かえば良いのかを考える機会として「日本の社会・組織において、女性の活躍を阻むものとは?—無意識の偏見をなくすために—」と題して東洋大学北村英哉教授に基調講演を行っていただいた。

先入観や固定観念からのバイアス(歪み)はどこにでも潜んでいる。例えば、日本人は「清浄主義」を持っているがゆえに、無意識に新型コロナウイルス対策が成り行き任せになりがちである。この無意識の偏見はもちろんジェンダーにおいても存在し、個人差の方が大きいにもかかわらず、そのせいで他者をカテゴリー分けしたステレ

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)キックオフシンポジウム

ダイバーシティ研究環境実現に向けて—多様性を活かして、ひとり一人が輝く未来へ!—

島根大学は、文部科学省の2019年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の取組機関に選定されました。
この事業は、女性研究者のダイバーシティ推進に向けた研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組、女性研究者の積極採用や上位職への積極登用など、女性研究者の活躍促進に向けた取組を支援するもので、島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校が連携して、地域に根差しつつ国際的に活躍できる女性研究リーダーを積極的に育成し輩出する仕組みを構築し、山陰全県のダイバーシティ推進に取り組みます。

令和2年 7.27(月) 15:00~17:30 **参加費 無料**
オンライン開催

参加申込先 <https://www.leaf2.shimane-u.ac.jp/enquete/no/20200727diversity>

プログラム(当日変更の可能性がります)

15:00~15:05	開会挨拶	島根大学長 藤部泰雄
15:05~15:30	基調講演	島根県、文部科学省、科学技術振興機構(学望)
15:30~16:30	基調講演	東洋大学教授 北村英哉氏 「組織を脱む無意識のバイアスの正体とは」 多様な人々の働きやすさを実現するには、無意識の偏見や固定観念を脱ぎ、バイアス(歪み)を減らすコミュニケーションが必要です。現状と課題に直面し、互に個性や強みや弱みの違いを認めあうことが必要です。本学組織の中でいかに実現するかが課題です。ダイバーシティ推進の取組に力を入れている島根大学が、どのように取り組んでいるかについてお話します。
16:40~17:25	取組紹介	島根大学・島根県立大学・松江工業高等専門学校・米子工業高等専門学校
17:25~17:30	閉会挨拶	島根大学理事・副学長(総務・労務担当) 藤田達朗

島根大学・島根県立大学・松江工業高等専門学校・米子工業高等専門学校

TEL 0852-32-6018 FAX 0852-32-6833
〒690-8504 島根県松江市南津路1000番地
©2021 SPSI-Consultants Shimane U. All rights reserved. <https://diversity.shimane-u.ac.jp/>

オタイプのイメージを持ってしまう。これについては、今回の参加者が【潜在連合テスト】を実際に行ってみることによって実感できた。

そこで、無意識の偏見から逃れるための対策として、物事を判断する場合、必ず根拠を考えることが必要だと北村先生は指摘。そして偏見のない社会は誰もが住みやすい社会であり、組織全体が向上すると同時に穏やかで安定的であるためには、構成員同士のフェア（公正）な関係と対応が求められると結論付けた。

今回、ダイバーシティ研究環境を実現するには、一人一人がこの無意識の偏見を乗り越えて、フェアに進めていくことが大切であることを改めて多くの人たちと共有することができた。ただし、この「無意識の偏見」はどんな場面でも生まれて簡単に心に住みついてしまうので、常に自分に「そう考える根拠は何か？」を問い続けなければならないことも強く感じた。そして共にそう考えられる仲間を増やしていきたいと思った。

後半は、連携4機関（島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校、島根大学）によるダイバーシティ事業の取組紹介と、パネルディスカッションを実施した。ダイバーシティ事業に関する各機関の課題を再確認し、新型コロナウイルスによる影響を今後どう乗り越え、取組を発展させていくかについて自由な意見交換を実施した。今後、連携機関間では女性研究者支援のあり方について常に情報共有を行うこと、連携機関間での共同研究の促進による研究交流を活発化させていくこと、そしてオンライン会議システムの活用による頻繁な情報交換、会議、共催イベントの実施をしつつ、なおかつ十分な感染対策を施したうえで対面会議や対面イベントの再開も時期を見計らって実施していくことについて合意した。本シンポジウムで得られた新しい知見と、連携機関との意見交換によって得られた共通理解を礎に、今後取組のより一層の発展のために取り組んでいきたいと思う。



東洋大学教授 北村英哉氏による基調講演

● 組織のマネジメント力向上のためのオンラインセミナー

【日 時】 令和3年2月9日(火) 13:00～14:30

【場 所】 島根大学 松江キャンパス 大学ホール ※対面・オンライン

【講 師】 広島大学 特任教授 学長特命補佐（研究人材育成担当） 相田美砂子氏

【主 催】 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク

今回は女性研究リーダー育成事業の一環として、広島大学 特任教授 学長特命補佐（研究人材育成担当）相田美砂子先生を講師としてお招きし、組織のマネジメント力向上のためのオンラインセミナーを開催

した。当日は連携機関や地元企業、ダイバーシティ事業に取り組む他大学の関係者等109名もの参加者が集まった。

まず、過去から現在に至るまでの、男女共同参画を目指す取り組みについてご紹介いただき、現状まだ日本は男女が平等に活躍できる社会になっていないことをお示しいただいた。男女平等参画の理念は75年ほど前から掲げられているにもかかわらず、未だ実現できていないということは、理念を掲げるだけでは国民の意識を変えるには不十分であるということが分かった。

組織がうまく機能していくためには、組織にビジョンがあること、そしてそのビジョンを組織内の全ての部署の構成員が共有していることが最も重要であると相田先生は強調する。大学で言うと、大学執行部から、プロジェクトや委託事業等の時限組織、そして学部・学科、さらには自分の研究室に至るまで全ての単位で組織の目的を認識したうえでマネジメントを行い、全体が連動して動いていることが大事であることが分かった。

長年、女性を組織に取り入れることは、その組織にとってマイナスではないかと思われてきたこともあったが、近年の研究によってむしろ多様な人材の増加は企業価値の向上につながるということがデータから明らかになってきた。そして、特に大学をはじめとする高等教育機関は、世界の未来を担う学生を取り巻く環境そのものであるために、高等教育機関においてジェンダーに関係なく活躍できることを示す必要がある。そのためには今、多様性を取り込み、硬直化した「組織の価値観」を変えること、私たち個人個人が、組織の一員として、社会人として、また子供の親として価値観を変えていくことが求められていると結論づけた。

組織のマネジメント力向上のためのオンラインセミナー

高等教育機関や企業、自治体などあらゆる組織にとって、女性の力を積極的に取り入れていくことは、組織の今後の発展にとってますます重要になってきています。広島大学特任教授、学長特命補佐の相田美砂子先生をお招きし、これまで組織やプロジェクトの中でリーダーシップをとってこられた経験から、組織に女性の力を取り入れていくことの重要性、組織の活性化のために管理職が持つべき心構え等について考えるヒントを載せていただきます。

日時 **2月9日(水)** 13:00~14:30 大学ホール

対象者
 ・島根大学・島根県立大学・松江工業高等学校・宋子工業高等専門学校に所属する管理職を含む教職員
 ・SANNINダイバーシティ推進ネットワーク協力機関に所属する企業や自治体の方

開催形式
 事前申込制対面オンラインハイブリッド型セミナー
 対 面：定員189名
 オンライン：定員300名

タイムスケジュール
 13:00 ▶ 開会の挨拶
 13:10 ▶ ご講演
 14:10 ▶ 質疑応答
 14:25 ▶ 閉会の挨拶

講師
 相田美砂子先生
 広島大学 特任教授
 学長特命補佐(学長特命補佐)

主催) SANNINダイバーシティ推進ネットワーク (共催) 島根大学・島根県立大学・松江工業高等学校・宋子工業高等専門学校
 島根大学ダイバーシティ推進課 (SANNINダイバーシティ推進ネットワーク事務局)
 島根大学ダイバーシティ推進課 Tel: 0852-32-6157 Mail: kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp



開会の挨拶をする島根大学 服部学長



広島大学学長特命補佐 相田美砂子氏による講演

さぼっとカフェ

毎月1回、昼休みを利用して、教職員や学生、地域の方々が参加し、一緒に昼食をとり、お茶を飲みながらダイバーシティやワーク・ライフ・バランスの推進についての提案や要望、意見交換、歓談等を行う場、「さぼっとカフェ」を開催している。

●第90回 さぼっとカフェ

「私のキャリアパス、メンターと出会う」

【日 時】令和元年11月6日(水) 12:10～13:00

【場 所】島根大学 松江キャンパス
教養講義棟2号館 604教室

【共 催】島根大学 ダイバーシティ推進室、
島根大学 大学教育センター、
島根大学 法文学部就職委員会

篠塚監事をお招きし、講演と意見交換を実施。講演ではご自身のキャリアやメンターとの出会いについてのお話のほか、著名人の著書やエピソードを紹介しながら、メンターと巡り合うためにはメンターに見つけてもらえるように努力することも必要、人によってはメンターを必要としない場合もある、といった興味深いお話を聴かせていただいた。

●第91回 さぼっとカフェ in出雲キャンパス

「篠塚監事との意見交換会 ワークライフバランスについて
～上野千鶴子氏の講演会から考える～」

【日 時】令和元年12月3日(火) 17:30～18:30

【場 所】島根大学 出雲キャンパス 本部棟5階大会議室

【共 催】島根大学 ダイバーシティ推進室、
島根大学 医学部附属病院ワークライフバ
ランス支援室

参加者からは「性別を問わず優れた人材を採用すべき」「育休・産休の代替雇用期間が短いため応募する人がいない」「採用公募のPR不足が否めないのので、部署内でHPを立ち上げることも考えなくては」「これから高齢化が進む中、保育園に高齢者も見ることのできる施設があると助かる」などの声があり、意見交換が活発に行われた。

さぼっとキャリアセミナー

第90回さぼっとカフェ

私のキャリアパス、
メンターと出会う

島根大学監事 篠塚英子氏

【日時】11月6日(水)
12:10～13:00

【会場】教養講義棟2号館 604教室

【対象】島根大学学生・教職員

【備考】各自ランチをご持参ください
途中入退室可能です
事前申込不要です

講師



篠塚英子氏

講師プロフィール

1965年武蔵大学経済学部卒業、
日本経済研究センター研究員を
経て、1987年お茶の水女子大学
助教授。日本銀行審議委員、お
茶の水女子大学教授、定年退職
後、日本司法支援センター(法
テラス)理事。このほか中央省
庁の各種審議会等で委員を歴任
し、2009年人事院で女性初の人
事官に任命される。
現在、お茶の水女子大名誉教授、
島根大学監事。
専門は労働経済学、金融政策、
ジェンダー論。

本セミナーは法文学部キャリアゲート制の対象です
主催：島根大学ダイバーシティ推進室
(旧男女共同参画推進室)
TEL:0852-32-6018(内線2157)
共催：大学教育センター・法文学部就職委員会



さぼっとカフェin出雲キャンパス

ワークライフバランスについて
～上野千鶴子氏の講演会から考える～

11月18日に島根大学で中国四国男女共同参画シンポジウムを開催し、東京大学名誉教授の上野千鶴子氏にご講演いただきました。
今回のさぼっとカフェでは出雲キャンパスに篠塚監事をお迎えし、上野千鶴子氏の講演の内容を元に、ワークライフバランスについての意見交換会を実施します。教職員の皆様の率直な意見を交換したいと思いますので、できるだけ多くの方のご参加をお待ちしています。

【日時】2019年12月3日(火)

【時間】17:30～18:30

【場所】本部棟5階大会議室

【対象】出雲キャンパス教職員

※事前参加申込み不要ですが、ご参加できる方は事前にワークライフバランス支援室までご連絡ください。



篠塚英子 監事



上野千鶴子氏の講演の様子

主催：島根大学ダイバーシティ推進室
共催：ワークライフバランス支援室
お問い合わせ：ワークライフバランス支援室
0853-20-2534(内線2534) wib@med.shimane-u.ac.jp

◎第92回 さぼっとカフェ 「2020年の目標決めワークショップ」

【日 時】令和2年1月15日(水) 12:10～13:00 ※当初の予定では1月8日

【場 所】島根大学 松江キャンパス 学生市民交流ハウス (FLAT)

【主 催】島根大学 ダイバーシティ推進室

この回は、悪天候により警報が発令されたため、当初の予定を1週間ずらしての開催となった。

参加した3回生2名と1回生2名全員が、SUN' IN Girlsのメンバーに登録した。



第92回さぼっとカフェ

HAPPY NEW YEAR 2020

勉強もprivateも、ステキな1年にしよう♪
…自分らしさを大切にする心理テストを活用して…
2020年 何したい??から
今年 は これをしよう!
【2020年の目標決め♡ワークショップ】 ショップ

【日時】 2020年1/8 (水)
12:10～13:00

【会場】 FLAT

【対象】 島根大学学生・教職員

【備考】 各自ランチをご持参ください
事前申込不要 途中入退室可能です
●もれなくステキなおやつ付♪
主催：島根大学ダイバーシティ推進室
(旧男女共同参画推進室)
TEL: 0852-32-6018 (内線2157)

◎第93回 さぼっとカフェ 「教職員・学生・地域の方との意見交換及び情報交換会」

【日 時】令和2年2月4日(火) 12:10～13:00

【場 所】島根大学 松江キャンパス 学生市民交流ハウス (FLAT)

【主 催】島根大学 ダイバーシティ推進室

この回は学生や地域の方の参加はなく、集まった教職員4名で情報交換を行った。



第93回 さぼっとカフェ

教職員・学生・地域の方との
意見交換及び情報交換会

令和2年2月4日 (火)
12:10～13:00

場所：松江キャンパス
学生市民交流ハウス (FLAT)

対象：地域の方、本学教職員、学生
備考：各自ランチご持参ください。

事前申し込み不要。
お茶とお菓子を用意しています。

主催 (問合わせ先)
ダイバーシティ推進室【さぼっと】
TEL: 0852-32-6018 (内線2157)

●第94回 さぼっとカフェ in 出雲キャンパス 「患者中心の医療の充実のために」

【日 時】令和2年2月21日(金) 17:30～19:30

【場 所】島根大学 医学部附属病院 みらい棟 4F「ギャラクシー」

【共 催】島根大学 ダイバーシティ推進室、島根大学 地域医療支援学講座

【後 援】島根大学 リハビリテーション部

千葉大学 医学部附属病院総合医療教育研修センター 朝比奈真由美特任教授と、千葉大学大学院 看護学研究科附属 専門職連携教育研究センター 井出成美准教授をお迎えし、学生向けの「専門職連携教育 (IPE)」ワークショップを開催した。

島根大学の人間科学部、総合理工学部、医学部、島根県立大学、出雲リハビリテーション学院などから38名が参加した。

まず千葉大で行われている医・薬・看・工学部でのIPEについてとIPEに関する研究についてお話しいただいた。次に、今回のワークショップのテーマである「対立」についての講義をしていただき、学生が5人ずつのグループにわかれて、実際のIPEを体験した。1人の女性が退院後に施設へ入所するか在宅かをグループで決めるという課題が出

され、学生たちは紙上の患者情報をもとに意見を出し合い、最終的にグループとしてどちらかの結論を出した。結論を出す過程で、各学部の学生がそれぞれの立場から話し合い、他学部の視点を知るいい機会になったようだ。ワークショップのあとは、附属病院の食堂ラバンにて懇親会を行った。はじめにアイスブレイクでお互いのエピソードを知る「人間ビンゴ」をして、参加者どうしがお互いを知ることができた。懇親会の中で、リハビリテーション学院の学生による学校紹介、小児在宅医療の勉強会についてや介護の見守りのロボットを含むプログラミングの勉強についてのプレゼンがあった。

ワークショップだけでなく懇親会でも他学部、他校の学生と交流の機会が生まれ、これからの更なる活動に繋がるきっかけとなったことだろう。



第94回 さぼっとカフェ

～患者中心の医療の充実のために～
さぼっとカフェで連携のスキルをアップしよう in Shimane



<日時>
➢ 2020年2月21日 (金)
17:30～19:30

「患者中心の医療、医療の質」を改善する多職種連携やチーム医療には、連携のためのスキルが必要です。専門職連携教育は、チームでの実践のために何が必要かという問いから発し、学生のうちからその価値観からスキルまでを学習できるように開発されたプログラムです。
今回は、日本で多職種連携教育に有名な
千葉大学医学部附属病院 総合医療教育研修センター
特任教授 朝比奈真由美先生
千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
准教授 井出成美先生
をお迎えし、参加者全員でワークショップを行います。
皆様の参加をお待ちしております。

<対象>
➢ 島根県の学生、専門学生 (学年・学部は関係なし！)
➢ 多職種連携・チーム医療に興味のある学生
➢ 他学部・他学科の学生と繋がりたい人！

<場所>
➢ 島根大学医学部附属病院 みらい棟4階 「ギャラクシー」
➢ 出雲市駅より徒歩20分 駅から島根大学病院前までのバスあり。

申し込みはこちらのGoogle formからお願いします。
その他・ご質問等は
shimane@ipecs.com までお願いします。



主催：島根大学ダイバーシティ推進室
共催：島根大学地域医療支援学講座
後援：島根大学リハビリテーション部



◎第95回 さぼっとカフェ 「SDHについてのワークショップ」

【日 時】令和2年11月18日(水) 18:30～20:30

【場 所】島根大学 医学部附属病院
みらい棟 4F「ギャラクシー」

【共 催】島根大学 ダイバーシティ推進室、
島根大学 地域医療支援学講座

今回は、京都大学大学院 医学研究科医学コミュニケーション学分野 准教授 岩隈美穂氏をお招きし、ワークショップを開催した。

対面で参加された方々からは、このような形でのグループワークを久しぶりに行うことができ楽しかった、という声が多かった。少人数でのグループワークはオンライン参加の方も含め、意見交換しやすく充実していたと感じてくださったようだ。

第95回 さぼっとカフェ
～健康の社会的要因(SDH)を可視化する～
患者さんが持っている「リソース」をマトリックスを使って診断してみませんか？

障がいのある人や困難を抱える人の置かれた状況を**包括的に見るためのツール**を用いて、みんなで一緒に考える企画です。お気軽にご参加ください！

SDHとは？
人びとの健康状態に影響を与える経済的・社会的状況のこと。
雇用形態や教育、人間関係なども含まれます。

講師：京都大学大学院医学研究科
医学コミュニケーション学分野
准教授 岩隈美穂 先生

<対象> 定員：対面 75名 + オンライン
> 島根県の学生、専門学生（学年・学部は関係なし！）
> その他、興味のある方（県外の方はオンライン参加も可）

<日時>
> **2020年11月18日（水）18:30～20:30** **申込締切 11/11(水)**

<場所>
> 島根大学医学部附属病院 みらい棟4階 「ギャラクシー」
※松江市内の大学・専門学校から**送迎バス**あります

<内容>
> 講義60分+ワークショップ60分
申込時に会場かオンラインをお選びください。

こんにちは！SIPS（shimane inter-professional collaborations by students）です！
私達は医学科・看護学科の学生中心に、学校・学生の垣根をこえて社会人も含み、患者中心の医療の充実のために多職種で色々な課題にチャレンジしていくイノベーターです！
様々な人とのつながりを作ってみませんか？

申し込みはこちらのGoogle formからお願いします＝
その他ご質問等は
shimane.sips@gmail.com までお願いします。

第13回日本保健医療福祉推進学会でSDHから脱却した3つの講演が理事長賞を頂きました！！

共催：島根大学ダイバーシティ推進室・島根大学地域医療支援学講座



「SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク ニュースレター」の発行

NEWS LETTER 2019.11.18

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）に採択されました

鳥根大学は、文科省の2019年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択機関に選定されました。

この事業は、女性研究者のイニシアティブ及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組、女性研究者の積極採用や上位職への積極登用など、女性研究者の活躍促進に向けた優れた取組を支援するものです。鳥根大学は鳥根国立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校と連携して、地域に根ざしつつ国際的に活躍できる女性研究リーダーを持続的に育成し届出する仕組みを構築し、山陰地域のダイバーシティ推進を牽引します。

連携体制



事業の全体像

本事業では、4機関が連携して、地域における協力機関の協力を得ながら、地域に根ざしつつ国際的に活躍できる女性研究リーダーを積極的に育成し届出する仕組みを構築します。また、4機関が中心となってネットワークを確立し、地域のステークホルダー間での対話を促進するとともに、本事業で得られた知見や成果を地域社会および広く広く発信していきます。

これらの取組により、山陰地域のダイバーシティ推進を牽引し、活力にあふれる地域づくりを先導していくことを目指します。

行動計画の概要

- 1. ダイバーシティ研究環境の整備強化**
 - 多様な構成成員の「違い」を考慮した学内制度の整備
 - 多様な構成成員の活躍を促す組織構築
 - ダイバーシティ推進する学内体制整備
 - SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク」を通じた、地域のステークホルダーによる対話の促進
- 2. 女性教員の積極採用と上位職登用**
 - 採用、昇任に関するダイバーシティアクションの強化
 - 優れた応募者を確保するための工夫と改善
 - 上位職登用後押しする支援の充実
- 3. 女性研究者の裾野拡大**
 - 女性研究者の新たなロールモデル提示
 - 学生志向キャリアデザイン支援
 - IoT技術を牽引できる女性研究者のロールモデル育成
 - 社会人女性的なための研究キャリアデザイン支援
- 4. 女性研究リーダー育成**
 - 研究リーダー育成プログラムの開発・実施
 - 組織・分野を超えた研究交流の推進
 - メンバーになる個人に寄り添った支援
 - 専門職型管理者を育成する教育プログラムの開発・実施

SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議を設立しました

2019年11月5日に、「SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議」を設立し、記者会見を開催しました。このネットワークは、関係機関による連携・協力体制を構築し、山陰地域のダイバーシティのさらなる推進を図るとともに、広く地域の知見を集め、地域社会および全国へ広く情報発信していくことを主目的としています。

今後、幅広い分野・セクターから協力を得てネットワークを拡大し、積極的な情報発信を行うことにより、山陰全域のダイバーシティ推進を牽引し、社会革新につなげていくことを目指します。



写真は左から松江工業高等専門学校校長、鳥根国立大学学長、鳥根大学学長、米子工業高等専門学校校長

次世代たたら協創センターとの協働

本事業では、平成30年度に採択された「先端高機能材料グローバル拠点の創出—Next Generation TATARA Project—（内閣府『地方大学・地域産業創生交付金』の実施計画）」に連携して取組を進めます。世界最先端の知が創出される現場をダイバーシティの観点から補充することにより、研究生産性を高め、研究力を持続的に向上させることのできる研究拠点を形成を目標とします。



「ダイバーシティ推進室」が設置されました

本年10月15日付で、「男女共同参画推進室」は「ダイバーシティ推進室」に変わりました。新体制のもとで、上記ダイバーシティ事業を駆動力として活用して、「鳥根大学ダイバーシティ推進宣言（令和元年6月6日）」の趣旨を具現化する施策立案し実施していきます。

ダイバーシティ推進の基盤となる「鳥根大学ダイバーシティ推進宣言」より抜粋

- 鳥根大学は、ダイバーシティ推進に対する意思を啓発し、本学の歴史と文化を継承する多様な意見が尊重されるよう環境整備に努めます。
- 鳥根大学は、すべての構成成員が個性と能力を十分に発揮できる教育・研究・就職環境を整えます。
- 鳥根大学は、ダイバーシティ推進の観点から人材育成と人材確保を推進します。

発行 鳥根大学ダイバーシティ推進室
お問い合わせ TEL 0852-32-6018（内線2157）
MAIL kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp

News Letter Vol.01

News Letter Vol.02

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」キックオフイベント

ダイバーシティ研究環境実現に向けて

多様性を活かして、ひとり一人が輝く未来へ！

2020年7月27日（月）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」キックオフイベント「ダイバーシティ研究環境実現に向けて」多様な視点から、ひとり一人が輝く未来へ！というテーマで鳥根大学学長が挨拶を行いました。

その際、本事業を推進するにあたり、どのような課題があり、どのような方針が採られるかを考える機会として「日本社会と協働において、女性の活躍を促すための一歩一歩の歩みを進めよう」というテーマで米子工業高等専門学校教授の北村英典先生に基調講演を行っていただきました。

これに引き続き、鳥根大学の鳥根学長が挨拶を行いました。鳥根学長は挨拶の中で、本事業の意義や鳥根大学の取り組みについて、鳥根学長が挨拶を行いました。鳥根学長は挨拶の中で、本事業の意義や鳥根大学の取り組みについて、鳥根学長が挨拶を行いました。

研究マッチングイベント2020

2020年7月20日（月）21日（火）の2日間の日程で、研究マッチングイベント2020を開催しました。

1日目は、連携4機関の研究者や企業の方など合計52名の方に参加いただきました。まず、異分野融合研究の事例紹介として、鳥根大学理学部数学科の鳥根教授が挨拶を行いました。

その際、鳥根教授が挨拶を行いました。鳥根教授は挨拶の中で、本事業の意義や鳥根大学の取り組みについて、鳥根教授が挨拶を行いました。

SANINご縁ネットミーティング

別府を拠点とする研究ネットワーク、研究アイデアの広がりやつながり、新たな知見や発見を促す「縁」のつながりをテーマに、研究発表を行います。ネットミーティングでは、「SANIN」各機関の研究を広く紹介し、協働や連携を促す機会を設けていきます。

立木実智樹（なつちゃんの実験室）が見つけた奇跡！

111年を誇る「なつちゃんの実験室」が見つけた奇跡！

【日時】2019年7月9日（月）
【場所】本学1号館 協働推進室（本学実習棟1号館）
【参加費】20名

奇跡とは何ですか？ 奇跡とは偶然の一致や、偶然の一致を意味する言葉です。鳥根教授は「奇跡とは偶然の一致や、偶然の一致を意味する言葉です。鳥根教授は「奇跡とは偶然の一致や、偶然の一致を意味する言葉です。」

心電図について

【日時】2019年9月19日（水）
【場所】本学1号館1111号室（鳥根実習棟1号館）
【参加費】11名

心電図とは、心臓の電気活動を記録した図です。心電図は、心臓の電気活動を記録した図です。心電図は、心臓の電気活動を記録した図です。

縁が研究者を対とった価値体験について

【日時】2019年11月6日（水）
【場所】鳥根大学 学長室（内務課2号館）
【参加費】15名

縁とは、人と人とのつながりです。縁は、人と人とのつながりです。縁は、人と人とのつながりです。

認知から子どもを育てる：授業のインクルーシブ化の条件と方法を考える

【日時】2019年12月7日（火）
【場所】鳥根大学 学長室（内務課2号館）
【参加費】15名

認知とは、人々の思考や感情です。認知は、人々の思考や感情です。認知は、人々の思考や感情です。

光でモノをはかる

【日時】2020年1月20日（月）
【場所】鳥根大学 学長室（内務課2号館）
【参加費】15名

光とは、目に見えない世界です。光は、目に見えない世界です。光は、目に見えない世界です。

専門職連携教育（IPE）とは

【日時】2020年2月20日（水）
【場所】鳥根大学 学長室（内務課2号館）
【参加費】15名

専門職連携教育とは、異なる専門職の学生が協働して学ぶことです。専門職連携教育とは、異なる専門職の学生が協働して学ぶことです。

航空機フォトエンジニアリング用熱材料

【日時】2020年6月19日（金）
【場所】鳥根大学 学長室（内務課2号館）
【参加費】15名

航空機フォトエンジニアリング用熱材料とは、航空機のエンジン部品に使用される材料です。航空機フォトエンジニアリング用熱材料とは、航空機のエンジン部品に使用される材料です。

主体的学びの形成

【日時】2020年7月30日（水）
【場所】鳥根大学 学長室（内務課2号館）
【参加費】15名

主体的学びとは、学習者が主体的に学ぶことです。主体的学びとは、学習者が主体的に学ぶことです。

深遠化による住宅の耐震被害が住人の健康状態に及ぼす影響

【日時】2020年9月14日（火）
【場所】鳥根大学 学長室（内務課2号館）
【参加費】15名

深遠化とは、住宅の耐震性能を高めることです。深遠化とは、住宅の耐震性能を高めることです。

News Letter Vol.02（1、2 ページ目）

ダイバーシティ推進のためのアンケート結果

6月から7月にかけて実施されたアンケートの結果を対称に実施したダイバーシティ推進のためのアンケート結果について報告いたします。

図1 回答者属性

性別	男性 6%	女性 94%				
職階	教員 52%	一般職員 48%				
所属	理工学 34%	経済学 24%	文学部 12%	法学部 10%	看護学 10%	教育学 8%

図2 ダイバーシティに関する意識

ダイバーシティに関する意識について、全体としては図2の結果となりました。各項目の賛否別の回答傾向については、図表等に示しますので、併せてご覧ください。

①研究やその他業務の遂行能力については性別が存在する。
 ②小さい子どもがいる女性に課税負担を軽減する必要がある。
 ③適切な労働環境は、ワークライフバランスの向上に寄与する。
 ④あなたの所属部署では、男女ともに平等にキャリアアップの機会が与えられている。
 ⑤あなたの所属部署では、男女ともに平等にキャリアアップの機会が与えられている。
 ⑥適切なワークライフバランスが与えられるのが望ましい。

2020年度女性研究リーダー育成支援事業

研究環境の改善を促進し、女性研究者の研究力の向上を支援するため、積極的に活躍する女性研究者を研究リーダーとして表彰する取り組みを実施いたしました。今年度は以下のとおり表彰されました。

島根大学

- ◎身体機能インピーダンス分析機器を用いた肥満の病態解析と加齢に伴う変化について
 - ◎担当 吉原 保博(理学部) 佐藤 真由(理学部)
 - ◎共同研究 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
- ◎女子教員の視点と知能を拡大する組織的意思決定プロセスの構築に関する研究
 - ◎担当 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
 - ◎共同研究 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
- ◎産学連携による産学連携推進センターの構築に関する研究
 - ◎担当 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
 - ◎共同研究 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
- ◎遺伝子発現解析の高度化に向けた、CCP1遺伝子とミトコンドリアの相互作用に関する研究
 - ◎担当 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
 - ◎共同研究 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
- ◎ワークライフバランスの向上に関する研究
 - ◎担当 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
 - ◎共同研究 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
- ◎「国文学」の創成化に関する基礎研究「国文学」の創成化に関する研究
 - ◎担当 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
 - ◎共同研究 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)

松江工業高等専門学校

- ◎産学連携による産学連携推進センターの構築に関する研究
 - ◎担当 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
 - ◎共同研究 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
- ◎地方都市中心市街地における公共空間化する商業施設の実現に関する研究
 - ◎担当 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
 - ◎共同研究 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)

米子工業高等専門学校

- ◎産学連携による産学連携推進センターの構築に関する研究
 - ◎担当 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
 - ◎共同研究 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
- ◎地方都市中心市街地における公共空間化する商業施設の実現に関する研究
 - ◎担当 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)
 - ◎共同研究 佐藤 真由(理学部) 佐藤 真由(理学部)

各機関の取組

管理職等を対象とした男女共同参画研修会を開催

本校では初めての管理職研修会である教職員を対象とした男女共同参画研修会を開催し、18名が参加しました。

研究リーダー制度

研究リーダー制度は、研究環境の改善を促進し、女性研究者の研究力の向上を支援するため、積極的に活躍する女性研究者を研究リーダーとして表彰する取り組みを実施いたしました。

子育て学生ランチ会

子育て学生ランチ会を開催しています。これは、子育てしながら学ぶ学生に対する交流の場として開催されています。

てごほ〜×SUNIN Girlsサイズ企画

1月1日、島根大学女子学生部主催の「てごほ〜×SUNIN Girlsサイズ企画」を開催しました。

2020年度 島根大学女性研究リーダー育成支援事業(プロジェクト別)

研究環境の改善を促進し、女性研究者の研究力の向上を支援するため、積極的に活躍する女性研究者を研究リーダーとして表彰する取り組みを実施いたしました。

若手女性研究者を対象とした科学研究費補助金獲得支援事業

若手女性研究者を対象とした科学研究費補助金獲得支援事業を実施しています。

国際学術雑誌投稿支援事業

国際学術雑誌投稿支援事業を実施しています。

研究助成情報検索システム RegISU

研究助成情報検索システム RegISU を活用して、研究助成情報の検索を支援しています。

英語論文の書き方セミナー

英語論文の書き方セミナーを開催しました。

第2回研究マッチングイベント

第2回研究マッチングイベントを開催しました。

News Letter Vol.02 (3、4 ページ目)

III-2. 島根大学の取組

ダイバーシティ推進やワーク・ライフ・バランスに関する取組・ニュース等について、ホームページやメールマガジン「さぼっと通信」、Facebook、インスタグラムを利用して情報発信。

- 島根大学ダイバーシティ推進室ホームページ <https://diversity.shimane-u.ac.jp/>
- 島根大学ダイバーシティ推進室Facebook <https://www.facebook.com/shimanegender/>

島根大学ダイバーシティ推進室のウェブサイトには、最新のニュースやサポート内容が掲載されています。

サポート内容から探す

- ワークライフバランス支援について 知りたい
- 研究支援について 知りたい
- キャリアアップ支援について 知りたい
- ダイバーシティ推進活動について 知りたい (海外イベント)
- 悩み事・困ったことを相談したい
- 連絡先で迷ったら

島根大学ダイバーシティ推進室ホームページより

●公開授業

「ジェンダー ～性を科学する～『多様な性と生』」

【日 時】令和2年10月16日(金) 13:00～14:40
※オンライン

【講 師】山口県立宇部総合支援学校 教諭 今田真樹氏

【共 催】島根大学 ダイバーシティ推進室、
島根大学 保健管理センター

島根大学公開授業
ジェンダー～性を科学する～
「多様な性と生」
日時：2020年10月16日(金)
13:00-14:40
方法：オンライン講義 (zoom)

講師：山口県立宇部総合支援学校
今田真樹先生

募集人数	約20名	募集対象	島根大学学生 教職員
講演内容	今田真樹先生は島根大学卒業生で、現在山口県で教員として働きながら、多様な性についての啓発活動を積極的に行っておられます。今回のジェンダー講義は公開授業としますので、興味のある方はぜひご参加ください。		
申込方法	島根大学ダイバーシティ推進室 E-mail:kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp にメールでお申し込みください。個別に詳細を連絡いたします。		
申込締切	2020年10月14日(水)		

主催 島根大学ダイバーシティ推進室・島根大学保健管理センター

●ワークライフバランスセミナー 「ワークライフバランスの実現による幸せなキャリア形成」

【日 時】令和2年11月16日(月) 18:00～19:30

【場 所】島根大学 出雲キャンパス みらい棟4階ギャラクシー ※対面・オンライン

【講 師】株式会社 Woman's 代表取締役 宮崎結花氏

【共 催】島根大学 医学部えんネット地域医療支援学講座、島根大学 ダイバーシティ推進室、
島根大学 医学部附属病院ワークライフバランス支援室

令和2年度(職員FD)
WORK LIFE BALANCE SEMINAR (現地+Web開催) **無料**
ワークライフバランスの実現による幸せなキャリア形成

講師 宮崎結花 先生
株式会社Woman's代表取締役
2児の子育てをしながら
企業において女性が輝くための
風土改革やメンタルヘルスから仕組みづくり
関わるため起業

対象
職員・医学生 誰なたでも

日時 2020年11月16日(月) 18:00-19:30
場所:みらい棟4階 ギャラクシー
WEB上での参加希望者にURLをお送りします。

無料印刷品
2週間前までに

申し込み
お問い合わせ

地域医療支援学講座
☎0853-20-2558(内線 2558) @career@med.shimane-u.ac.jp

主催：島根大学医学部えんネット・地域医療支援学講座 共催：島根大学ダイバーシティ推進室 島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

● 第11回中国四国男女共同参画シンポジウム

【日 時】令和元年11月18日(月) 14:00～16:30

【場 所】島根大学 松江キャンパス 大学ホール

今回のシンポジウムは内閣府、男女共同参画連携推進会議、島根大学の共催で開催され、国立大学協会・島根県・松江市の後援をいただいた。

シンポジウムのテーマは「島根発、多様な人材活躍に向けて～大学、行政、企業の連携から探る～」とし、第一部は社会学者で東京大学名誉教授の上野千鶴子氏より「地域を支える女性の力の未来」と題した基調講演があった。引き続き、第二部のパネルディスカッションでは、同テーマをもとに4名のパネリストからの事例報告を軸に、活発な意見交換が行われた。

会場には、中国・四国地方の国立大学の男女共同参画に携わる教職員、全国ダイバーシティネットワーク組織中国・四国ブロック会議構成員、本学学生、行政、企業、一般の方など約300名の参加があった。

中国四国男女共同参画シンポジウム
島根発、多様な人材活躍に向けて
大学、行政、企業の連携から探る

【第一部】14:00～14:50 基調講演
「地域を支える女性の力の未来」
上野 千鶴子 (社会学者、東京大学名誉教授)

【第二部】15:00～16:30 パネルディスカッション
本山 岳 (島根大学総合理工学部准教授)
古志野純子 (株式会社長岡技術科学館准教授)
橋本 潤也 (島根県環境生活総務課男女共同参画推進室)
河野 美江 (島根大学長特別補佐(男女共同参画担当))

申込方法(申込締切:11月14日)
ウェブサイト申込フォームまたはチラシ裏面のFAX
申込書にて必要事項を記入の上、お申込みください。
※定員になり次第申込を締め切る場合があります。
ウェブサイト申込フォーム
<http://maluto.biz/shimane/>

令和元年 11/18 (月)
14:00～16:30 (受付 13:30～)
会場:島根大学松江キャンパス 大学ホール

島根大学ダイバーシティ推進室 | 0852-32-4018
kyoto@maluto.biz, shimane@maluto.biz | <http://gender.shimane-u.ac.jp/>



東京大学名誉教授 上野千鶴子氏による基調講演



パネルディスカッションの様子

I

事業概要・実施体制

II

実施内容一覧

III

ダイバーシティ
研究環境の整備強化

IV

女性教員の積極採用と
上位職登用

V

女性研究者の裾野拡大

VI

女性研究リーダー育成

資料

シンポジウム等への参加

令和2年度

開催日	シンポジウム・セミナー	主催
9月18日	四国発信! ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト シンポジウム2020	徳島大学
9月24・25日	大学等における男女共同参画推進セミナー	国立女性教育会館
10月23日	第9回中国・四国地区 男女共同参画推進連携会議	鳴門教育大学
11月5日	ダイバーシティ総括シンポジウム 「変化の先の未来へー大学×ダイバーシティ」	大阪府立大学
12月5日	ダイバーシティ講演会「ダイバーシティ時代に向けて」	芝浦工業大学
12月14日	全国ダイバーシティネットワークシンポジウム 「コロナ新時代を拓くジェンダー・ダイバーシティの実現に向けて」	全国ダイバーシティ ネットワーク
3月1日	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型) キックオフシンポジウム	山梨大学
3月9日	令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型) グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業 キックオフセミナー 「多様性を活かすグローバル研究環境の実現」	千葉大学
3月22日	大阪府立大学 2020年度 理系女子大学院生チームIRIS(アイリス) 活動報告会	大阪府立大学

仕事と家庭の両立支援

●夏期学童保育の実施

仕事と育児の両立支援の一環として、小学生の子どもを持つ教職員が、子どもの夏期休暇中も安心して業務に従事できるよう、松江キャンパスにおいて夏期学童保育を実施するもの。例年、ダイバーシティ推進室と学生団体プレプレまつえキッズが共同で行っているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため、実施を見送った。

●研究サポーターの配置

育児や介護によって研究時間の確保が困難な研究者に対して、研究の補助業務を行う研究サポーターを配置。

令和元年度は11月に希望者を募集し、7名の研究者に対し12月から順次研究サポーターを配置した。

令和2年度は7月に希望者を募集し、9名の研究者に対し8月から順次研究サポーターを配置した。

●入試における託児サービス

「へるん入試」(令和2年11月14日・15日)、「共通テスト」(令和3年1月16日・17日)において試験業務に従事する教職員を対象に託児サービスを実施し、希望者を募った。

●企業主導型保育所 本のほいくえん と協定締結

令和3年3月、今井書店が運営する、企業主導型保育所 本のほいくえん と共同利用する協定を結んだ。島根大学の教職員の方は、従業員枠で優先的に入園していただくことが可能となった。

●子育て学生オンラインランチ会

子育てしながら学ぶ学生同士の交流の促進と情報交換を目的としたもので、毎週水曜日に実施している。

Ⅲ-3. 島根県立大学の取組

●「SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク」への参画

- 本事業実施機関・協力機関とともに「SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク」を中心に活動し、事業の推進を図った。

●県内の女性看護職の管理者を支援するためのコンソーシアム設立

- 県内にある病院の看護管理者がつながり、上位職登用を目指して頑張れるよう、来年度に「しまね看護コンソーシアム(仮称)」を立ち上げる予定としており、コンソーシアム設立に向け、12月及び3月にネットワーク化を進めるためのオンラインによる「カタリバ」を2回開催した。
- 1回目は「コロナ禍時代の新人看護師教育に備える」、2回目は「中間管理職・スタッフの成長と促進について対話を通して考える」というテーマでディスカッションを行った。日頃、病院内で自分の体験や悩み、気持ちを語れる場が少ない看護管理者にとり、組織を超えてつながる場は、知の共有だけでなく、共感と元気をもらえる有意義な場となった。
- 次年度も定期的に相互交流・相互学修の場として「カタリバ」を開催する予定。



Ⅲ-4. 松江工業高等専門学校取組

◎ 女性教職員と校長懇談会

この懇談会は、より良い職場環境整備のために、校長と女性教職員との懇談会を通じて、女性教職員を取り巻く現状を把握することを目的として実施している。

【日 時】 令和元年7月24日(水) 15:30～17:00

【場 所】 松江工業高等専門学校特別会議室

11名の女性教職員が参加し、特別休暇の取得方法や、所定時間外労働についてなど、日頃感じていることについてディスカッションを行った。



【日 時】 令和2年7月29日(水) 13:00～14:00

【場 所】 松江工業高等専門学校会議室

15名の女性教職員が参加し、休暇や育児に関する制度や在宅勤務についてなど、日頃感じていることについて意見交換を行った。



●意識啓発研修会

この研修会は、松江工業高等専門学校教職員の男女共同参画に関する理解を深め、本校での男女共同参画推進の機運向上に結び付けることを目的として実施している。

【日 時】令和2年3月3日(火) 13:00～15:00

【対 象】全教職員

【場 所】松江工業高等専門学校236講義室

【講 師】株式会社インソース 杉谷裕子氏

「ハラスメント防止研修」を実施し、45名の参加があった。「誰もがハラスメントをする可能性がある」と認識することや、ハラスメントを見かけた場合は「見て見ぬふりをしないこと」など、ハラスメントを招かない、悪化させないために重要なことを学習した。



【日 時】1回目：令和2年12月7日(月) 15:00～16:30

2回目：令和2年12月8日(火) 8:50～10:20

【対 象】全教職員

【場 所】松江工業高等専門学校大講義室

【講 師】株式会社リカレント 鈴木昭二氏

「ダイバーシティ研修」を実施し、77名の参加があった。ダイバーシティ(=多様な人材が集まっている状態)から一歩進んで、集まった一人ひとりの個性を活かそうという考え方が“インクルージョン”で、大切なことは“個人を尊重して考えること”ということや、アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)をなくすことは難しいため誰にでもあるものと認識し、発言や行動に配慮することの大切さについて理解を深めた。



- 【日 時】令和2年8月5日(水) 13:00～14:00
 【対 象】管理的立場にある教職員
 【場 所】松江工業高等専門学校会議室
 【講 師】松江土建株式会社 経営企画室 室長：牧野 良治 氏
 係員：周藤 司 氏

“しまね女性の活躍応援企業”としても活動されている松江土建株式会社から講師を招き、「建設らしくない建設会社を目指すために～女性が活躍できる職場環境づくり～」と題した講演会を実施し、14名の参加があった。「制度を作る、整備することはあくまでも手段であり、個人の意識が変わらなければ、組織は変わらない。」と述べられ、個人の意識を変えるために、組織として明確な意思を示すことの重要性を強調された。



● 松江高専わくわくtalking

- 【日 時】令和3年2月1日(月) 13:30～15:00
 【場 所】松江工業高等専門学校会議室

より良い職場環境整備のため、教職員が職場や働き方に対して感じている疑問や不安、要望や提案を語り合うことを目的とした「松江高専わくわくtalking」を開催し、教職員10名の参加があった。仕事の分担や休暇等の制度等、教職員が日頃感じていることについて自由に意見交換を行った。

松江高専わくわくtalking
 令和3年2月1日(月)13:30～15:00 @松江高専会議室



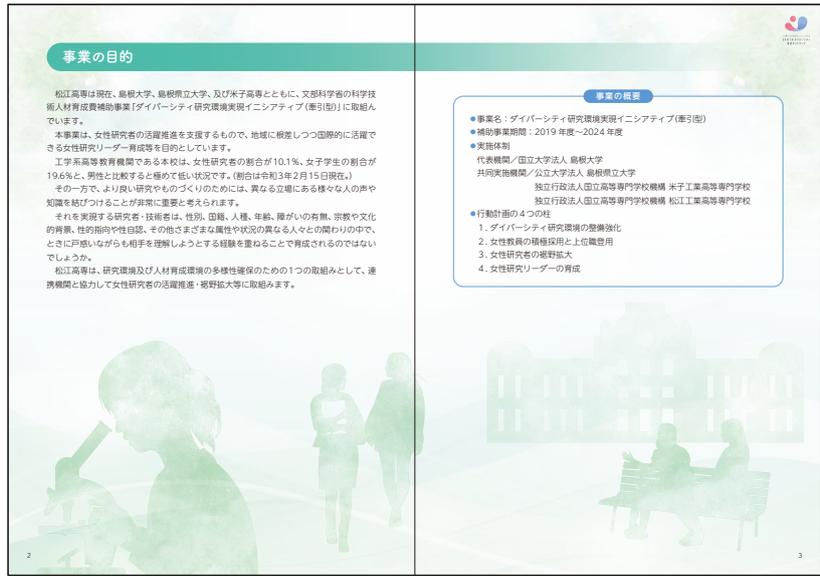
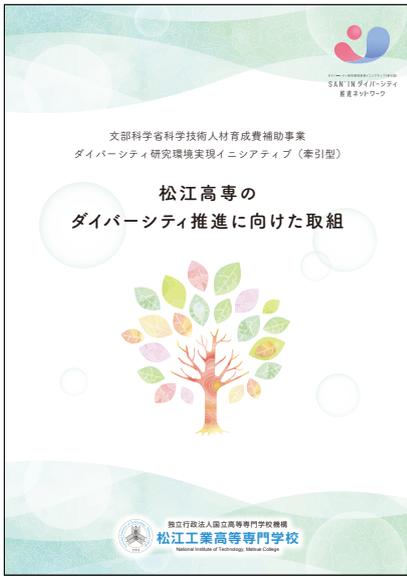
職場や働き方に対して感じている疑問や不安、要望や提案について話してみませんか？
 どなたでもご参加いただけます。
 職場環境の把握のため、様々な方の参加をお待ちしています！

- 対象** 松江高専教職員
- 内容** 1. 高専機構の休暇制度等について(担当者より説明、10分程度)。
 2. フリートーク
- その他** ・当日参加可能です。途中参加や途中退席も可能です。
 ※準備の参考とするため、可能な方は事前の申込をお願いします。
 ・申込者多数の場合は会場を変更することがあります。

問合せ先：人事・労務係(担当：細田、内線：5112)

● 事業紹介パンフレット等の作成・配布

事業紹介冊子



取組紹介冊子



● 女性教職員・女子学生比率向上ワーキンググループの発足

令和2年度に、女性教職員・女子学生比率向上ワーキンググループを発足させ、令和3年度から5年間のアクションプラン(案)作成を行った。

Ⅲ-5. 米子工業高等専門学校の取組

◎「SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク」への参画

- 本事業実施機関・協力機関（米子高専振興協力会）とともに「SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク」を中心に活動し、事業の推進を図った。

◎「鳥取県男女共同参画推進企業」に認定

- 本校の女性教職員採用方針、休暇等各種福利厚生制度、各種取り組み等を基に鳥取県に申請し、令和2年10月15日付けで認定された。



IV

女性教員の積極採用と 上位職登用

IV-1. SAN'INダイバーシティ推進ネットワークの取組

◎「多様な研究者を採用するために～研究者採用ガイド～」の発行・配布

女性教員の積極採用と上位職登用について先進的な取り組みを実施している岩手大学の事例を参考に、作成した。



◎「若手女性研究者の育成を推進するグッドプラクティスQ&A集」の発行・配布

女性教員を採用した経験のある理系学部の上位職教員に対して実施した聞き取り調査を元に、作成した。



IV-2. 島根大学の取組

◎ 学内教員への聞き取り調査とダイバーシティに配慮した人事選考への協力依頼

総合理工学部の教授の男性6名、助教の女性2名に対して、学部学科内の女性教員や女子学生の現状と課題に関する聞き取り調査を実施した。また、学内の部局長及び学系長と面談の上、人事の際に考慮するよう依頼した。

◎ 岩手大学へ聞き取り調査

先進的な取り組みを数多く行っている岩手大学の事業担当者に対し、女性教員の採用や上位職登用に関する取り組みについてヒアリングを実施した。

IV-3. 島根県立大学の取組

◎ 若手研究者への支援

- 県若手研究助成制度を活用し、女性研究者比率の高い出雲キャンパスにおいては、令和2年度は5名の女性研究者が採択を受け、研究力向上を図った。
- 県内医療機関等に在職する大学院修了者に対して、論文作成過程での指導・アドバイス等を実施し、研究支援を行った。

IV-4. 松江工業高等専門学校取組

◎ 女性を歓迎し優先するポジティブアクションを明記した教員公募の実施

女性を歓迎し優先するポジティブアクションを明記した教員公募を全ての公募の機会に実施した。

◎ 教員人事枠運用の弾力的な対応(下位流用)による若手女性教員の確保

教員人事枠運用の弾力的な対応(下位流用)により、若手女性教員を令和元年度に2名、令和2年度に1名を採用した。

IV-5. 米子工業高等専門学校の取組

◎ 女性研究者に対するポジティブアクションを明記した教員公募の実施

- ダイバーシティ推進の観点から、業績(教育業績・研究業績・社会貢献・人物を含む。)の評価において同等と認められる場合には、女性並びに外国籍の研究者を優先的に採用することを公募において明記することを令和元年度から実施した。

● 教員人員枠の弾力的運用による女性教員の採用及び登用

- 既定の教員人員枠を弾力的に運用することにより、女性教員の採用及び登用を行った。

令和元年度 登用：助教から准教授 1名

令和2年度 採用：助教 1名

登用：准教授から教授 1名、助教から講師 1名

なお、令和2年度に登用の教授については、本校初の女性教授、初の学科長となった。

● 上位職登用を後押しする「研究支援経費」の配分

- 女性教員の研究実績を上積みし、上位職登用を後押しする目的で、校内審査を経て特に優秀と評価された女性教員に対し「研究支援経費」配分を行った。

令和元年度 5名、令和2年度 3名

● 女性管理職教員の養成

- 指導的立場にある女性教員のロールモデルを示し、各国立高等専門学校をけん引する女性教員の育成を図ることを目的として国立高等専門学校機構が開催した「令和2年度女性教員管理職育成研修」に女性教授1名が参加した。

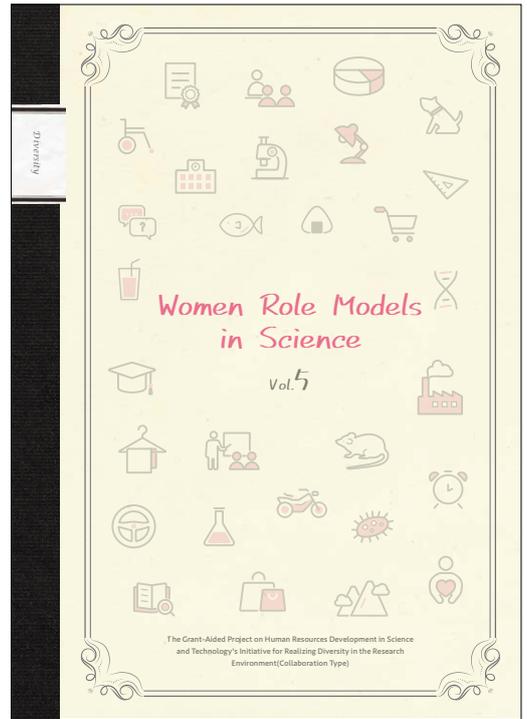
V

女性研究者の裾野拡大

V-1. SAN' INダイバーシティ推進ネットワークの取組

● ロールモデル集の作成

本プログラム進行にあたって、女子中高生が理系進路を考えるためには、理工学系、医学薬学系の各分野で活躍している先輩方、ロールモデルとなる人の話を身近に聞ける機会が必要であると考えた。そこで、実際に理工学系、医学薬学系の各分野で活躍している先輩方14名に仕事の内容やその仕事を選んだきっかけなどについて語っていただき、1冊にまとめた。令和3年3月には英語版も作成し、海外協定校等に配布した。



ロールモデル集vol.5 (英語版) 表紙

01 CASE of YUKI KODAMA

学びに役立たないものは無い

My Career

時期	内容
小学校	プログラミング、ロボット、科学、英語、音楽、美術、体育、家庭科、社会科、国語、算数
中学校	英語、音楽、美術、体育、家庭科、社会科、国語、算数
高校	英語、音楽、美術、体育、家庭科、社会科、国語、算数
大学	英語、音楽、美術、体育、家庭科、社会科、国語、算数
博士課程	英語、音楽、美術、体育、家庭科、社会科、国語、算数
ポスドク	英語、音楽、美術、体育、家庭科、社会科、国語、算数
教員	英語、音楽、美術、体育、家庭科、社会科、国語、算数
社人	英語、音楽、美術、体育、家庭科、社会科、国語、算数
社人	英語、音楽、美術、体育、家庭科、社会科、国語、算数

児玉さんのある1週間

時間	月	火	水	木	金	土	日
6:00	起床						
7:30	朝ごはん						
8:00	通勤						
8:30	勤務						
12:00	昼食						
13:00	勤務						
18:00	通勤						
18:30	帰宅						
19:00	夕食						
19:30	読書						
20:00	風呂						
20:30	テレビ						
21:00	就寝						
22:00	起床						
23:00	起床						
24:00	起床						

児玉さんのある1日

今の仕事(この企業)を選んだきっかけ

学んでおいて役立つこと (オススメ)

学んでおいて役立つこと (オススメ)

社会に出る前のみなさんへメッセージ

ロールモデル集vol.5 より

● 公開授業「人と職業」女性研究者キャリアトーク

「女性研究者としての生き方・働き方(大学・行政の立場から)」

- 【日 時】 令和2年12月24日(木)
16:50 ~ 18:30 ※オンライン
- 【講 師】 島根県産業技術センター 生物応用科
主任研究員 秋吉渚月氏
島根大学 生物資源科学部 生命科学科
准教授 児玉有紀氏
- 【主 催】 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク

島根大学 公開授業「人と職業」
女性研究者キャリアトーク
女性研究者としての生き方・働き方
(大学・行政の立場から)

長い人生を視野に入れ「キャリアをデザインしていく」なかで「人と職業との関係」は切っても切れません。大学を卒業し、社会の入り口において、自分にとって納得のいく職業 (first JOB) とは何か? について考える講義です。今回は2人の女性研究者をお招きし、トーク形式で進行します。※この授業は教養科目「人と職業」の一環として実施されます。

日時 2020年12月24日(木) 16:50-18:30
オンラインセミナー【Zoom利用】

ゲスト講師
島根大学 生物資源科学部 生命科学科 准教授 児玉 有紀さん
島根県産業技術センター 生物応用科 主任研究員 秋吉 渚月さん

お問い合わせお申し込み
E-mail: kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp
TEL: 0852-32-6018 (内線2157)
お申し込みは右記QRコードよりお願いします。

● 公開講座

「ミャンマーにおける保健医療アクセス向上に挑む ~国際的に活躍する女性ロールモデル~」

- 【日 時】 令和3年3月23日(火) 13:30 ~ 15:00
※オンライン
- 【講 師】 特定非営利活動法人AMDA社会開発機構
山上正道氏
中外製薬株式会社 渉外調査部
原田亜弥氏
- 【主 催】 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク

ミャンマーにおける保健医療アクセス向上に挑む
~国際的に活躍する女性ロールモデル~

ミャンマーからの非感染症対策プロジェクトの実情について、特定非営利活動法人AMDA社会開発機構山上氏と、中外製薬(株)渉外調査部 原田氏よりお話しいただきます。

日時 2021年3月23日(火) 13:30~15:00
【3月19日(金)申込締切日】
オンライン開催 (Zoom利用) 定員40名

【対象者】 本学全学部/学科生 (松江キャンパス・出雲キャンパス)

特定非営利活動法人 AMDA社会開発機構 山上 正道氏
中外製薬株式会社 渉外調査部 原田 亜弥氏
司会: 島根大学・大学教育センター 丸山実子

お問い合わせお申し込み
E-mail: kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp
TEL: 0852-32-6018 (内線2157)
お申し込みは右記QRコードよりお願いします。

当日は、特定非営利活動法人AMDA社会開発機構の山上正道氏と、中外製薬株式会社渉外調査部の原田亜弥氏をお招きし、島根大学と松江工業高等専門学校の教職員、学生計26名の参加があった。

参加した学生は、お二人のご経験と仕事に対する姿勢から、今の自分にできることは何か、社会の役に立つ仕事を自分自身に引き付けてどのように考えればよいかなど多くのことを学ぶことができた。



V-2. 島根大学の取組

● 島根大学70周年記念事業 特別講演

「女性研究者としての歩み(キャリアパス) 本学の卒業生を迎えて」

【日 時】 令和元年11月27日(水) 13:00～14:40

【場 所】 島根大学 松江キャンパス 大学ホール

【講 師】 大阪大学大学院 医学系研究科
准教授 香山尚子氏

【共 催】 島根大学 教育・学生支援機構、
島根大学 ダイバーシティ推進室

島根大学70周年記念事業 特別講演
Female researcher's FORUM
「研究」を楽しもう！
2019. 11/27 WED
時間：13:00-14:40
会場：大学ホール 対象：全学生・全教職員
研究に関心のある方

女性研究者としての歩み(キャリアパス)
本学の卒業生を迎えて

講演 好きを仕事にするチカラ
女性研究者
KAYAMA Hisako
香山 尚子氏

総合司会
大学教育センター
丸山 実子

事前申込

窓口
大学教育センター
(キャリア担当)
学生支援センター1F
12番窓口にて
直接申込も可。
TEL: 0852-32-6061

2003年島根大学卒業、大阪大学院へ進学し2005年修了。以後大阪大学にて医学系研究科の研究者として着任。近年には、炎症性腸疾患の新規治療薬開発に新展開として多大なる研究実績を築きました。こうした本学卒業後の歩みによって活躍される女性研究者としての講話を頂き、研究職としての現状を交えながら、本学の学生への夢や希望を与えて頂きます。

島根大学 教育・学生支援機構
ダイバーシティ推進室

● 女性研究者をリーダーとする共同研究プロジェクト支援事業による人間科学部全学オープン授業

「MWEDO女子中学校での教育」

【日 時】 令和2年1月21日(火) 16:50～18:30

【場 所】 島根大学 教養講義室棟2号館

【講 師】 ナウエシ・イサヤ・リジワ氏(理科教諭)、
ウィリアム・ビル・レムピレ氏(英語教諭)

2019年度島根大学
「女性研究者をリーダーとする共同研究プロジェクト支援事業」
人間科学部全学オープン授業の
お知らせ

MWEDO女子中学校での教育

講師：ナウエシ・イサヤ・リジワ(理科教諭)
ウィリアム・ビル・レムピレ(英語教諭)
日時：2020年1月21日(火)16:50～18:30
場所：島根大学教養講義室棟2号館3階601教室

*マサイの生徒たちはどんな教育を受けているのでしょうか。
通訳がありますので、どなたでも参加・交流できます。

問合せ先：人間科学部 西崎 緑 内線7207
nisizaki@hmn.shimane-u.ac.jp

● 出前授業 「中学生の心とからだ」

【実施日】令和2年7月8日(水)、令和3年2月22日(月)

【場 所】島根大学義務教育学校後期課程

【講 師】島根大学 保健管理センター 教授 河野美江氏

まず、赤ちゃんの誕生のビデオを見た後、第二次性徴や男女交際、性の多様性についての講演を行った。また、産婦人科医師という立場から、女性が理系に進学して医師や研究者となることやキャリアプランについて話し合った。

参加した生徒からは、「赤ちゃん誕生のビデオを見て、生んでくれた母に感謝の気持ちでいっぱい」「境界線を守らなければいけないと思った」「性の多様性について心に残った」などの感想が聞かれた。

進路についての話は、将来について考える良い機会になったようだ。



『SUN' IN Girls』結成

女子学生ネットワークと次世代の女性研究者を育成することを目的として、令和元年11月に誕生した。

SUN' IN Girls は島根大学と大学院に所属する理系の女子学生によって構成されている。女子中高生や学部生に対し理系分野の魅力伝える身近なお姉さんの存在であり、ロールモデルとなることを通して理系進路・研究キャリアの選択を支援しており、令和2年度はイベントへの参加など、次の活動を行った。



ロゴマーク

●「奥出雲たたらツアー ～日本刀を産み出した自然資源～」

【日 時】令和2年10月24日(土) 13:00～16:00

【場 所】奥出雲多根自然博物館

【共 催】島根大学イノベーション創出機構次世代たたら協創センター、島根大学ダイバーシティ推進室、米子工業高等専門学校、松江工業高等専門学校

【後 援】奥出雲町

【協 力】公益財団法人奥出雲多根自然博物館

当日は女子中学生2名と、女子高校生3名の参加があった。始めに、多根自然博物館の学芸員である菅田康彦氏より、たたら製鉄の原料である砂鉄が取れる地質について学んだ上で、屋外にて砂鉄とアルミニウムの粉末に花火を用いて酸化還元反応を起こさせ、真ん丸の鉄を作るワークショップを行った。参加者たちは、製鉄の一連の流れを理解することができたようだ。

続いて休憩をはさみ、奥出雲町農業振興課農業遺産推進グループの穴戸俊吾氏より、伝統的な知識に基づいた土地利用と棚田景観について学び、徒歩で博物館周辺の棚田の見学をした。たたら製鉄のための砂鉄鉱山の跡地を利用して造成された棚田の景観は圧巻で、自然と共生しながら持続可能な暮らしを営んできた先人たちの知恵に触れる貴重な体験となった。最後は島根大学総合理工学部2回生のSUN' IN Girlsの2人による進路選択や将来のキャリアについてのプレゼンテーションを実施。参加した中高生からは、「将来の進路を考える良い機会になった」「将来やりたいことを見つけるために頑張りたい」など前向きな感想が聞かれた。



●「しまね大交流会」出展

【実施日】令和2年11月7日(土) ※オンライン

地域の女子生徒・学生・保護者・住民の方に対して、自然科学分野の魅力を伝え理解促進に繋げるため、SUN' IN Girlsのメンバーが参加者に理系クイズを出題したほか、進路相談会では地元高校生からの学科の選び方や文理選択に関する相談にのった。

目次	
1.	SUN' INダイバーシティ推進ネットワークとは
2.	ご縁ネットミーティング
3.	異分野交流の促進
4.	SUN' IN Girlsの活動
5.	しまね大交流会での出展内容

SUN' IN Girls

SUN' IN Girls

・“SUN' IN Girls (we study using new insight!)”とは、女子学生ネットワークと次世代の女性研究者を育成することを目的として、2019年11月に誕生した理系女子学生ネットワークです。

SUN' IN Girls×てごほ〜む(中学生向けオンライン無料塾サークル) コラボ企画として理系クイズ企画を毎月実施しています。

SUN' IN Girls

**理系クイズ
&
理系進路相談会
を実施します**

理系進路に関心のある多くの中高生、保護者の皆様からのご来場をお待ちしております。

● 出前授業 「理想の家作り」

【実施日】 令和2年11月20日(金)

【場 所】 松江市立持田小学校

SUN' IN Girls が建築デザインの面白さを伝えようと、松江市立持田小学校で授業を行った。児童は壁や柱、階段といった住宅の構造について説明を受けた後、牛乳パックを使って自分好みの家作りに熱心に取り組んだ。学生自身にとっても改めて建築の奥深さを知る、大変良い機会となった。



● 小中高生向けクイズ形式学習活動 ※オンライン

月1回、島根大学医学部学生無料塾サークル「てごほ〜む」の定例勉強会の休憩時間を利用し、理系クイズ企画を実施している。SUN' IN Girls の学生たちによる、自身の専門知識を生かした理科や数学関連のクイズで、参加する中高生だけでなく、ボランティア学生も一緒になって楽しみながら学んでいる。



I

事業概要・実施体制

II

実施内容一覧

III

ダイバーシティ
研究環境の整備強化

IV

女性教員の積極採用と
上位職登用

V

女性研究者の裾野拡大

VI

女性研究リーダー育成

資料

V-3. 島根県立大学の取組

◎eポートフォリオの開発・運用

女性研究者が研究者として成長しながら働き続けられるためには、基盤となる研究力の強化や、働く場・働き方の多様化の理解と推進が必要となる。そこで、あらゆる研究機関や場で活動可能な女性研究者の育成・教育支援、継続性の強化のため、個々の女性研究者が所属する機関の枠にとどまらず、共通して活用可能な指標と自らのキャリアデザインを具体化・可視化するために、研究者版eポートフォリオ「ENISHI」を開発し、運用を開始した。



V-4. 松江工業高等専門学校取組

◎企業との連携によるリカレント教育

令和元年度は、3次元モデリング基礎、無人航空機を用いた3次元測量等の内容で実施し、社会人10名(うち女性2名)と学生42名(うち女性18名)が参加した。令和2年度はコロナ禍のため授業ができなかったが、令和3年度以降の実施に向け、リカレント教育の教材開発や他産業へのリカレント教育の水平展開の検討等を行った。



● 多様性のある共生社会のための社会実装可能なものづくり

令和元年度は、学生が地域の養護学校に出向いて同校生徒が生活の中で感じている問題を調査し、児童・生徒一人ひとりの障がいや用途に合わせた「学びや生活の質の向上」のための製品を工作し、納品とアフターケアまで学生自身で行った。令和2年度はコロナ禍の影響で養護学校へ出向くことができなかったが、同校の「総合的な学習の時間」の中の学習单元において、本校教員がオンラインで講師を務めるなど連携を継続している。



● 企業との連携による本校学生への女性研究者・女性技術者ロールモデルの提示

協力機関である(一社)松江テクノフォーラムが開催した令和2年度企業紹介にダイバーシティ推進特設ブースを出展し、企業6社に女性技術者・女性研究者の活動を発表いただき、のべ83名の学生が参加した。

V-5. 米子工業高等専門学校の実績

● 「米子高専生のための進路研究セミナー」の開催

● 大学担当者との直接面談による、大学院博士課程進学選択へのキャリア教育を含む進路研究セミナーを開催した。同セミナーは、単独高専の開催としては全国最大級の規模である。



● 令和元年度

【日 時】 令和2年1月11日(土)

【場 所】 鳥取県立武道館

【参加企業等】 241ブース(企業220社、大学及び大学院18大学、地元自治体3団体)

【参 加 者】 本校の本科3・4年生、専攻科1年生及び保護者など302名

● 令和2年度

【日 時】 令和3年1月23日(土)

【場 所】 ※webによる開催

【参加企業等】 企業約200社(特設Webサイト掲載約200社、そのうちLIVE配信説明約170社)、大学12学部及び大学院8研究科

【参 加 者】 本校の本科3・4年生、専攻科1年生及び保護者など400名

● 第2回研究マッチングイベント

【開催日】 令和3年3月15日(月)、16日(火)

【主催】 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク

【後援】 島根県

第2回研究マッチングイベントの1日目は、宮野 公樹氏(京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授)をお招きし、「異分野融合の意味と意義」というテーマでお話しいただいた。宮野先生は、研究をしていると異分野融合は避けては通れないということをご自身の経験から感じておられ、京都大学で実施されている異分野融合を促進するための様々な活動について紹介いただいた。「今異分野融合がことさら注目されていることは不自然」で「異分野融合はむしろ学問のあり方そのもの」という言葉が印象的だった。



特別講演「異分野融合の意味と意義」
京都大学 学際融合教育研究推進センター
准教授 宮野公樹氏

次に、島根大学佐藤先生と、松江高専芹川先生に、学際研究事例紹介をしていただいた。佐藤先生は、伝承文化、神経発達科学、子ども家庭福祉、臨床心理学、教育工学を専門とするメンバーと共に、神楽が特に地域の子どもの発達に及ぼす効果について研究されているということだった。芹川先生は、地域防災力向上に関する研究について、医学—工学、理学—工学という組み合わせで実施されているということだった。

当日オンラインで46名の参加者の方にお集まりいただき、チャットを用いた活発なやり取りが行われる有意義な会となった。

2日目は研究マッチングを求める6名の島根大学、島根県立大学、松江高専、米子高専の研究者の方からのショートプレゼンテーションを行った。参加者は、連携機関の他、企業や他大学の方など総計30名だった。発表者の方々は1人5分の持ち時間で自分の研究紹介、研究上ご自身ができること、そして求めるコラボレーションについて発表した。

最後に、発表者の方と参加者のうち希望された方とで個別ディスカッションをZoomのブレイクアウトルームを用いて行った。ここでは研究内容に関する質疑応答や、具体的な共同研究に向けた話し合いが行われた。

イベント終了後、運営側の私たちのところには後日面談希望や



マッチングに関する相談が総計5件寄せられ、現在進行形で研究マッチングを進めている。次年度以降も研究マッチングイベントを定期的で開催する予定である。

研究マッチングイベントへのご要望・ご提案等に関するメールアドレスはこちら

E-Mail : beyond-boundaries@edu.shimane-u.ac.jp

● 英語論文の書き方セミナー 基礎編・応用編

【日 時】基礎編 令和2年12月4日(金)・8日(火)・11日(金)
12:00～13:30

応用編 令和3年1月25日(月)・27日(水)・29日(金)
12:00～13:30

※オンライン開催

【講 師】理化学研究所 創発物性科学研究センター
小野義正氏

【主 催】SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク

12月4日、8日、11日の3回にわたって、英語論文の書き方セミナー・基礎編 を実施した。数々の大学で講義実績のある大人気講師の小野 義正 氏(理化学研究所 創発物性科学研究センター)をお招きし、日本語を英訳するのではなく、英語的発想で英語論文を書くためのポイントを丁寧に解説していただいた。

第1講義では、英語論文は日本語論文の英語翻訳したものではなく、一文一文から全体の内容構成に至るまで全て「英語の発想」で書く必要があるという点についてお話しいただいた。

第2講義では、第1講義で言及された「英語の発想」の詳細な内容と具体的な記述方法についてご説明いただいた。

第3講義では、実際に英語論文を書くときに直面する文法事項の基本的ルールについて解説いただいた。この講義は、英語論文を書く時だけでなく、英語文献を読むときや、日本語論文内で英語文献の引用等の記述をする際にも大変役立つ内容であった。

1月25日、27日、29日の3回にわたって、英語論文の書き方セミナー・応用編 を実施した。

第1講義では、基礎編でお話しいただいた「英語の発想」で論文を書くという点について、論理構成の立て方や効率的な論文執筆の進め方など、より実践的な内容をお話しいただいた。

第2講義では、英語論文の構成と各項目の書き方について具体的に教えていただいた。

第3講義では、日本人がしてしまいがちな論理的な誤りや文法的なミスについてご紹介いただいたうえで、査読者とやりとりする手紙例を交えながら、アクセプトまでの道のりの進め方についてご説明いただいた。

基礎編、応用編共にそれぞれ90分×3コマの授業だったが、どの回も内容が濃密で、大変貴重な学びの機会となった。

ポスターのタイトル: **英語論文の書き方セミナー**

副題: *How to write a paper in English*

特徴: オンライン開催!、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(第1期)、参加費無料

対象: 大学院生を含むすべての研究者を対象とした英語論文作成のスキルアップセミナーです。日本語を英訳するのではなく、英語的発想で英語論文を書くためのポイントを丁寧に解説していただけますので、どの分野の研究者にとっても「目からウロコ」を実感できると思います。ランタイムのひと時、オンラインセミナー(zoom)にアクセスしてみてください。

日程	基礎編	応用編
第1講義	2020年12月4日(金) 12:00-13:30 「英語論文の書き方と日本人英語の欠点」	2021年1月25日(月) 12:00-13:30 「論文査読者と読みやすい英語(論文)の書き方」
第2講義	2020年12月8日(火) 12:00-13:30 「英語論文執筆の鉄則と明確に書くテクニック」	2021年1月27日(水) 12:00-13:30 「英語論文の構成と各項目の書き方」
第3講義	2020年12月11日(金) 12:00-13:30 「英文を書く時の文法事項」	2021年1月29日(金) 12:00-13:30 「論文執筆で注意すべき文法事項、論文投稿」

講師: 小野 義正 氏
1977年、東京大学大学院理学系研究科博士課程修了(物理学)。理学博士。その後、イリノイ大学物理学科、ケースウエスタンリザーブ大学物理学科でポスドクを修了。1982年(独)日立製作所日立研究所に入社。アパレル、ディスプレイの研究開発を経て、企業経営者、研究開発文芸委員長を歴任。この間、英語論文、英語口頭発表の演習・指導に関わり、その間、日立製作所基礎研究所、研究開発部、東京大学大学院工学系研究科において、科学・技術英語教育を担当。2014年より現在まで、理化学研究所創発物性科学研究センターにて、研究員及び院生向けに英語教育に携わる。

主催: SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク (共催) 島根大学・島根県立大学・松江工業高等専門学校・水子工業高等専門学校

◎「人が育つコミュニケーション・場作りを考える～ファシリテーションの役割～」

【日 時】令和3年3月23日(火)
12:00～13:00 ※オンライン

【講 師】島根大学 教育・学生支援機構
大学教育センター 准教授 岩瀬峰代氏

【主 催】SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク

当日は島根大学と島根県立大学、松江工業高等専門学校、民間団体から計22名の参加があった。

最初に、会議やゼミの話し合いにおいてうまくまわらないといった「困った」があったときに、それを解決するための一つの方法としてファシリテーションがあるということ、話し合いの持ち方やファシリテーションの役割、そしてコーチングとの違いを含めて説明していただいた。

続いて、ファシリテーションをうまく進めるために必要な、視線の向け方や話し合いを見える化するツールについていくつかご紹介いただき、話し合いに参加する人が話しやすい場づくりについて学んだ。

参加者からは、話し合いを持つ時に運営側と参加者の満足度をどのように高めればよいか、またファシリテーションを学生指導に取り入れるために、どう学んでゆけばよいかなどの質問があり、活発なやり取りがなされた。

The poster features a title at the top, a central illustration of a woman speaking, and several text boxes. It includes the date and time (March 23, 12:00-13:00), the speaker's name (Ryusei Nemoto), and a QR code for registration. The text explains the concept of facilitation as a process of supporting interactions between people.



I 事業概要・実施体制

II 実施内容一覧

III ダイバーシティ 研究環境の整備強化

IV 女性教員の積極採用と 上位職登用

V 女性研究者の裾野拡大

VI 女性研究リーダー育成

資料

研究者ネットワーク「SAN' IN研究者ご縁ネット」

研究分野や年代を超えた研究交流のための女性研究者のネットワークとして、平成28年度に「しまね女性研究者ご縁ネット」を設立。毎月開催するミーティングでは約15名前後の研究者が参加し、自身の研究紹介や意見・情報交換を行っている。現在は女性に限らず、広く山陰両県の高等教育機関や民間機関の研究者・技術者に参加を呼びかけている。

《SAN' INご縁ネットミーティング》

「SAN' IN研究者ご縁ネット」メンバーによるミーティングが月1回開催されている。ミーティングは、毎回発表者1名が自身の研究を他の分野の研究者にもわかりやすく紹介し、参加者全員が質問やコメントを行い、発表者がそれに答えるというもの。参加者は交流の中で、お互いの研究への理解を深めている。このように異なる分野の研究者が定期的に集まり話し合う中で、共同研究やプロジェクトに繋がりそうなアイデアが生み出される取組みに発展することを目指している。

● 第37回SAN' INご縁ネットイブニングミーティングin出雲

【日 時】 令和元年11月26日(火) 18:30～19:30

【場 所】 島根大学 出雲キャンパス 医学図書館3F視聴覚室

【話題提供】 島根大学 医学部 内科学講座 講師 津端由佳里氏
「肺癌患者を対象とした臨床試験について」

津端先生は肺癌患者さんを診られる中で、「肺癌患者のどのくらいの人に血栓がおり、どのくらいに治療をすればよいか」というクリニカルクエスチョンを持たれ、日本ではデータがないため、ご自分で計画して、現在全国で多施設共同臨床試験を実施している。今回は15名の参加者があり、先生の熱い思いと執念に圧倒されていた。クリニカルクエスチョンから研究に繋げる手法についても教えていただいた。



The 37th meeting of Network in SANIN

肺癌患者を対象とした臨床試験について

演者は、現在肺癌患者を対象とした複数の多施設共同臨床試験を実施しています。当日はクリニカルクエスチョンの設定から臨床試験の実施、その発展性に関し、みなさんと情報共有できればと考えています。

【話題提供者】 島根大学医学部 内科学講座 講師 津端由佳里

2019年11月26日(火) 18:30～19:30

島根大学出雲キャンパス国際交流ラウンジ

↑ 20:00～完結会を開催します。

ライブものRANKA [出雲市駅北口から150m (出雲市今市町971-27)]
<https://shilog.com/shimane/42025/420251/42004592/>

つなげる、つたえる、ひろげる！



島根大学男女共同参画推進室 (さぼっと)
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
問い合わせ先：事務局代
miwase@soc.shimane-u.ac.jp



◎ 第38回 SAN' INご縁ネットイブニングミーティングin松江

【日 時】令和元年12月17日(火) 18:00～19:00

【場 所】島根大学 松江キャンパス 学生市民交流ハウス「FLAT」

【話題提供】島根大学 教育学部 附属教師教育研究センター 講師 松尾奈美氏

「認知から子ども理解を深める：授業のインクルーシブ化の条件と方法を考える」

参加者は17名で、米子高専、松江高専からもご参加いただき、子ども同士の学び合いの可能性について話し合った。「学生対応の参考になった」「他の子どもたちにどう伝えるかが難しい」「教員の数が少なくて手が回らない」など、参加者の経験に基づいた質問が相次ぎ、活発な討議が行われた。



The 38th meeting of Network in SANIN

**認知から子ども理解を深める：
授業のインクルーシブ化の条件と方法を考える**

「個別最適化」の風潮が強まるなか、多様な子どもたちが共に学ぶことの意味が問われています。今回は、認知検査などを子ども同士の学び合いの構想に活かす方法について提案しますので、その可能性をご一緒に検討できれば幸いです。

【話題提供者】島根大学教育学部附属教師教育研究センター 講師 松尾 奈美

2019年12月17日(火) 18:00～19:00
島根大学松江キャンパス学生市民交流ハウス「FLAT」
19:10～交歓会を開催します。

つなげる、つたえる、ひろげる！
島根大学ダイバーシティ推進室（主ぼつと）
〒690-8504島根県松江市西川津町1060
問い合わせ先：若瀬雄代
miwase@soc.shimane-u.ac.jp



I

事業概要・実施体制

II

実施内容一覧

III

ダイバーシティ
研究環境の整備強化

IV

女性教員の積極採用と
上位職登用

V

女性研究者の裾野拡大

VI

女性研究リーダー育成

資料

◎ 第39回 SAN' INご縁ネットイブニングミーティングin松江

【日 時】 令和2年1月20日(月) 18:00～19:00

【場 所】 島根大学 松江キャンパス 学生市民交流ハウス「FLAT」

【話題提供】 長岡工業高等専門学校 電気電子システム工学科 准教授 竹内麻希子氏
「光でモノをはかる」

参加者は10名で、米子高専、松江高専からも参加があった。

竹内先生の研究分野はレーザー分光計測、環境情報計測で、非破壊で様々な物質の品質評価を行なっている。今回は太陽電池化合物半導体の評価と農産物の検査についてお話いただいた。

太陽電池の開発は長岡高専の様々な研究者との共同プロジェクトとして様々な角度から研究が進んでおり、学生もその一端を担っているとのことだった。また、農産物での研究では「新潟コシヒカリの精米成分と食味の関係」や「トマト果実の非破壊品質評価」についてお話いただいた。

お話を受け、参加者から「様々な種類の太陽電池を開発する意味を教えてください」「形が悪くても美味しいことを示すことができれば、農産物の市場価値が上がるのではないか」「カニなどの水産物の品質評価に応用できないか」などのコメントや質問が出された。

「忙中閑あり」こんなひと時が、新しいアイデアにつながることを実感できた。





The 39th meeting of Network in SANIN

光でモノをはかる

私たちが取り巻く環境には様々な課題が取り上げられています。本研究室では新規太陽電池材料の光学的評価から植物・農産物の非破壊品質評価手法の確立まで幅広く研究を行っております。研究テーマとしては工学・生物学・化学領域に渡る複合領域研究になります。

【話題提供者】 独立行政法人 国立高等専門学校機構 長岡工業高等専門学校 電気電子システム工学科 准教授 竹内 麻希子

2020年1月20日(月) 18:00～19:00
島根大学松江キャンパス学生市民交流ハウス「FLAT」
19:10～交流会を開催します。

つなげる、つたえる、ひろげる！


 島根大学ダイバーシティ推進室 (さぼっと)
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
問い合わせ先: 若原 唯代
miwase@soc.shimane-u.ac.jp

● 第40回 SAN' INご縁ネットイブニングミーティングin出雲

【日 時】 令和2年2月20日(木) 18:00～19:30

【場 所】 島根大学 出雲キャンパス 国際交流ラウンジ

【話題提供】 千葉大学 医学部 附属病院総合医療教育研修センター 特任教授 朝比奈真由美氏
 千葉大学 大学院 看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 准教授 井出成美氏
 「専門職連携教育 (IPE) とは」

島根大学、島根県立大学、高専などの多機関より、教員・学生19名が参加し、千葉大で行われている医学生、看護学生、薬学生のIPEについて、IPEに関する研究についてお話しいただいた。その後、グループに分かれ、実際のIPEを体験した。グループワークでは参加者が一緒に作業を行うことで、参加者同士の関係が促進される経験をした。これを機に、今後、様々な分野において共同研究が進むことを願っている。

The 40th meeting of Network in SAN'IN

専門職連携教育 (IPE) とは

安全で質の良い医療の提供のためには様々な職種によるチーム医療が欠かせません。IPEは多職種が協力して医療を実践していくための能力を身に付けることを目的とした教育です。IPEに関する研究では、千葉大学で開発した「専門職連携尺度」を利用した学生の学習アウトカム評価研究、病院などの医療職者を対象とした医療チームの連携能力評価研究などを行なっています。またIPEを行う中で学部間の教員同士の関係も促進され、色々な分野で学部間共同研究が進み、学部間にまたがった問題の解決も上手くいくようになります。IPE教育プログラムを紹介し、実践上の課題について参加者の皆様と一緒に考えます。

【話題提供者】
 千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター 特任教授 朝比奈真由美
 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 准教授 井出成美

2020年2月20日 (木) 18:00～19:30
 島根大学出雲キャンパス国際交流ラウンジ
 ♀ 20:00～交流会を開催します。

つなげる、つたえる、ひろげる!
 島根大学ダイバーシティ推進室 (さぼっど)
 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
 問い合わせ先: 若淵陽代
 miwase@soc.shimane-u.ac.jp



●第41回 SAN' INご縁ネットオンラインミーティング

【日 時】令和2年6月12日(金) 12:10～13:30

【話題提供】東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 物質系 教授 御手洗容子氏
「航空機ジェットエンジン用耐熱材料」

いつもの女性研究者に加え、県内の金属関係企業、本学次世代たたら協創センターの研究者・技術者、島根県庁職員、そして未来の研究者・技術者である松江高専機械工学科の学生の方々など計106名の参加があった。

まず、御手洗先生から耐熱チタン合金の可能性や現在開発中の高温形状記憶合金など最先端の研究内容を紹介していただいた。その後、実験データに関することからなぜ理系の研究分野を選んだのか、研究の面白さとはなにかといったことなど、参加者の様々な質問に丁寧に答えていただいた。

本ミーティングを通して「材料を通して高温で動く機器の性能向上に貢献したい」という御手洗先生の熱い思いが伝わってきた。そしてキャリアは偶然に与えられた機会をいかに活かしていけるかということも理解することができ、参加者全員にとって、とても充実した時間となった。

主催者側としても今回初めてのオンラインミーティングで、不安も多くあったが、対面開催では結ばなかったご縁を結ぶことができ本当にうれしく思う。今しばらくオンラインでの開催が続くが、オンラインのメリットを生かし、広域で参加者を募り、女性研究者の研究の輪を広げていきたいと思う。

The 41st meeting of Network in SAN'IN

航空機ジェットエンジン用耐熱材料

航空機ジェットエンジン用材料は高温高圧下で使われるため、耐熱性の向上と高い信頼性が重要です。耐熱Ti合金の力学特性向上やプロセス制御による信頼性の向上、新しい耐熱材料として開発している高温形状記憶合金について紹介します。

【話題提供者】国立大学法人 東京大学大学院新領域創成科学研究科 物質系 教授 御手洗 容子

2020年6月12日(金) 12:10～13:30
事前申込制オンラインミーティング
参加希望者は下記連絡先へご連絡ください

つなげる、つたえる、ひろげる!
ダイバーシティ推進室 特任助教 海田 彩
〒690-8504 島根県松江市番川津1060
e-mail : a-sawada@soc.shimane-u.ac.jp
Tel : 0852-32-6157 (内線 : 3400)



・研究拠点が2箇所=>東大柏キャンパス、物質材料研究機構 (NIMS)

東大 B4 2人
芝浦工大 B4 1人
芝浦工大 M2 2人

つくばエクスプレス路線図

「秋葉原」から「つくば」までの20号58.3kmを
最速45分で結びます。

5/24

◎ 第42回 SAN' INご縁ネットオンラインミーティング

【日 時】令和2年7月30日(木) 12:00～13:00

【話題提供】島根大学 教育学部 准教授 香川奈緒美氏

「主体的学びの形成 ～コミュニケーション学からの視点から～」

島根大学、松江高専、米子高専所属の女性研究者や職員の方など計17名の参加があり、大学教育におけるコミュニケーション学の活用について、データも交えて丁寧にお話しいただいた。特にアメリカの大学院で学び、その後アメリカで教鞭をとっておられた先生が、日本の教育現場に来られた時に感じたコミュニケーションに対する価値観の違いや暗黙のルールについては参加者も共感するところが多く、活発な議論が繰り広げられた。

The 42nd meeting of Network in SANIN

主体的学びの形成
～コミュニケーション学からの視点から～

教育者と学習者の主体的学びにどのような要素が影響しているのか、という問いに向けて、コミュニケーション学の視点から教育実践と教育効果検証研究を行っており、その一部についてお話しします。

【話題提供者】国立大学法人 島根大学 教育学部
准教授 香川 奈緒美

2020年7月30日(木) 12:00～13:00
事前申込制オンラインミーティング
参加希望者は下記連絡先へご連絡ください

つなげる、つたえる、ひろげる！
ダイバーシティ推進室 特任助教 澤田 彩
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
e-mail: a-sawada@soc.shimane-u.ac.jp
Tel: 0852-32-6157 (内線: 3400)

研究者アイデンティティ

■根幹はコミュニケーション学

「コミュニケーション学」×「教育社会学」

【研究】

- ・ 「他者理解」「自己概念」
- ・ 対人、異文化間、家族コミュニケーション学

【教育】

- ・ ジェンダー論
- ・ パブリック・スピーキング
- ・ 非言語
- ・ リスニング・スキル
- ・ 日本文化とコミュニケーション

研究者アイデンティティ

■「主体的学び」の形成を目的とした研究と教育

- ・ 公正な社会に向けて社会を変革するコンピテンシー
- ・ データに基づく教育と教育効果検証

【国際教育】

- 国外研修
- 島根大学を拠点とした国内留学プログラム

【宇宙教育（宇宙航空研究開発機構 JAXA）】

- 「宇宙の学校」
- 教員免許更新講習
- 「1日宇宙記者」

●第43回 SAN' INご縁ネットオンラインミーティング

【日 時】令和2年9月24日(木) 12:00～12:50

【話題提供】松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 助教 芹川由布子氏
「液状化による住宅の傾斜被害が住人の健康状態に及ぼす影響」

島根大学、松江高専所属の女性研究者や職員の方に加え、地域の一般の方を含め、計15名の方の参加があった。

現地調査によって得られた液状化による住宅の傾斜被害データおよび被害にあった住民へのアンケート結果を用いた報告では、液状化による住宅の傾斜被害の深刻さを理解することができた。そして、芹川先生の大学院時代の緻密な実験や他の分野の研究者との共同研究から、この課題を何とか解決したいという熱い思いが伝わってきた。

質疑応答の時間には、「私たちの住む松江で液状化被害が発生する可能性はあるか」「被害を防ぐためにどんな方策があるか」などの質問や、今後の研究の方向性や資料に関するアドバイスや発表データの一部を学生にも共有させてもらいたいという依頼もあり、とても充実した時間となった。

The 43rd meeting of Network in SANIN

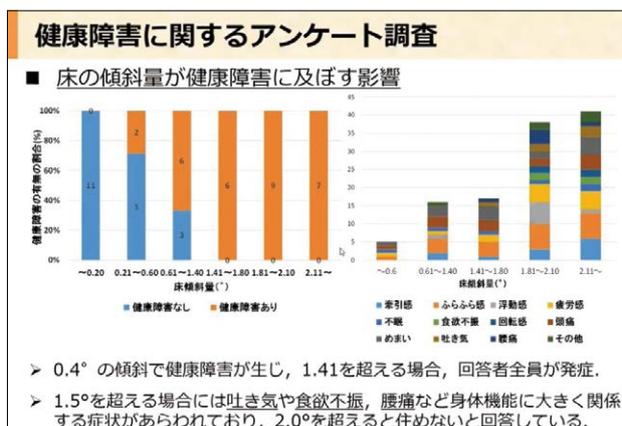
液状化による住宅の傾斜被害が住人の健康状態に及ぼす影響

地震被害の一つとして「液状化」という現象があります。液状化により傾いた住宅で生活を続けていると、住人に様々な健康障害が生じるということが報告されています。今回は、被災地にて行った健康障害に関するアンケート調査の報告に加えて、地震から身を守るための策について一緒に考えてみたいと思います。

【話題提供者】松江工業高等専門学校 環境・建設工学科
助教 芹川 由布子

2020年9月24日(木) 12:00～12:50
事前申込制オンラインミーティング
参加希望者は下記連絡先へご連絡ください

つなげる、つたえる、ひろげる！
ダイバーシティ推進室 特任助教 理田 彰
〒690-8504 島根県松江市高川津1060
e-mail : a-sawada@soc.shimane-u.ac.jp
Tel : 0852-32-6157 (内線 : 3400)



各テーマの説明

■ 松江市における自然災害のデータベース化と地域防災力向上への応用

・過去の自然災害を調べて被災状況を整理。
 ・災害発生時の要因分析、地域防災の課題を抽出

例えば…津波・洪水時の避難経路シミュレーション
 活火山三瓶山噴火時の防災計画



◎ 第44回 SAN' INご縁ネットオンラインミーティング

【日 時】 令和2年11月5日(木) 12:00～13:00

【話題提供】 島根県立大学 看護栄養学部 健康栄養学科 助教 福田詩織氏

「成長期におけるリンの過剰摂取が抗老化タンパクα-klotho発現に及ぼす影響」

島根大学の教職員、島根県産業技術センター研究員の方など、計10名の方の参加があった。

マウスを用いた実験によると成長期においてハムやウインナーの添加物として含まれるリン化合物の過剰摂取が腎石灰化のリスクを高めてしまう可能性があるとのこと。同じ結果が人間に現れるかどうかはわからないとしてもリン化合物を含む食品の摂取について考えさせられた。また、福田先生

が学生と一緒に実施している地域活動についても発表され、福田先生の教育、研究、そして地域貢献に奮闘されている様子が良く伝わってきた。

質疑応答の時間には、福田先生への質問だけでなく、福田先生から地域での活動や異分野交流において自身の研究発表をする際の注意点について参加者に質問があった。参加者それぞれの地域活動の経験や考え方など活発な発言があり、学びの多い時間となった。



I

事業概要・実施体制

II

実施内容一覧

III

ダイバーシティ
研究環境の整備強化

IV

女性教員の積極採用と
上位職登用

V

女性研究者の裾野拡大

VI

女性研究リーダー育成

資料

● 第45回 SAN' INご縁ネットオンラインミーティング

【日 時】 令和2年12月10日(木) 12:00～13:30

【話題提供】 京都大学 大学院 医学研究科 医学コミュニケーション学分野 准教授 岩隈美穂氏
「混合研究法：質的研究についての基礎と量的研究との素敵なマリージュ」

島根大学、松江高専の教職員計16名の参加があった。始めに、質的研究の特徴や量的研究との違いについて、たとえ話を用いながら分かりやすく解説していただき、アンケートの自由記述欄への記入事項を分析するためのSCATという手法をご紹介いただいた。そして後半は、岩隈先生ご自身が質的研究と量的研究の各特性を生かしながら実際に進めておられる、「障がい者の高齢化」調査についてお話しいただいた。

The 45th meeting of Network in SANIN

混合研究法：質的研究についての基礎と量的研究との素敵なマリージュ

研究には、質的研究と量的研究という大きな流れがありますが、それぞれの研究手法には長所・短所があります。近年この二つを組み合わせた混合研究法 (Mixed Methods Research : MMR) が知られるようになってきました。この講演では、研究とバラタイム、質的研究の特徴・量的研究との違い、MMRの基本的デザイン、そしてMMR実践形態について実際の研究を例に考えていきたいと思っています。ランチ時のリラックスタイムに研究者の共通話題である研究手法についてコミュニケーションを促進できるような話題を提供できればと思っていますので、ご参加をお待ちしております。

【話題提供者】 京都大学大学院医学研究科 医学コミュニケーション学分野
准教授 岩隈美穂 先生

2020年12月10日(木) 12:00～13:30
事前申込制オンラインミーティング
参加希望者は下記連絡先へご連絡ください

つなげる、つたえる、ひろげる！
ダイバーシティ推進室 特任助教 澤田 彩
〒690-8504 島根県松江市島川津野1060
e-mail : a-sawada@soc.shimane-u.ac.jp
Tel : 0852-32-6157 (内線 : 3400)

参加者からは、質的研究の際に対象が人の場合、研究者の主観によって分析結果が左右されやすいため、それを避けるためにはどうしたら良いのか、SCAT とKJ法とはどのように異なるのかといった質問や質的研究手法について整理してわかりやすかったというコメントが寄せられた。社会科学や教育の分野の研究者にとって、研究手法を改めて見直す良い機会となった。

京都大学 KYOTO UNIVERSITY

2020年12月10日
ご縁ネットミーティング
12～13:30

混合研究法：質的研究についての
基礎と量的研究との素敵なマリージュ

岩隈美穂
医学コミュニケーション学分野
Kyoto University School of Public Health
京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻

meho iwakawa

◎京都大学附属図書館

SCAT(改変版*)の様子

* 福土元春・名取直引(2011) 指圖書は医師臨床研修制度と帰属意識のない研修医を養い入れた
れない。医学教育(42):165-73

◎ 第46回 SAN' INご縁ネットオンラインミーティング

【日 時】令和3年2月18日(木) 12:00～13:00

【話題提供】島根大学 教育学部 英語科教育専攻 講師 篠村恭子氏

「小学校外国語教育の現状と課題 ―子どもと教職志望学生の学びの可視化の試み―」

島根大学、松江高専、米子高専の教職員計25名の参加があった。

初めに、小学校での外国語活動・外国語科導入の経緯や、これまでの検証データの蓄積から小学校外国語教育において児童・生徒の英語学習への積極性が向上するなどの教育効果があるが、教員の指導力・技術などに課題があるという報告があった。

このような課題を踏まえ、篠村先生は「子どもの学びの可視化」「教職志望学生の学び

の可視化」という研究テーマに取り組んでおり、英語学習において、子どもたちは自分自身や他者への気づきがあり、高学年になると言葉自体への気づきが高まるなど、小学校外国語教育の意義を示していただいた。また、「教職志望学生」を対象とした研究から、動機の違いが学びの違いに現れる可能性があることも示唆していただいた。

質疑応答の時間では、ご自身のお子さんの経験を踏まえての小学校外国語教育についての意見が出たり、海外の日本人学校で務めた経験のある方から、さらに話を聞きたいといった感想があった。

The 46th meeting of Network in SANIN

小学校外国語教育の現状と課題
―子どもと教職志望学生の学びの可視化の試み―

今年度から必修化された小学校中学年からの外国語活動と高学年の外国語科についての概要と課題などについてご紹介し、英語の運用能力以外の面での児童の学びと、教員養成課程における小学校教員を目指す学生の学びの可視化の試みについてご紹介します。

【話題提供者】国立大学法人 島根大学 教育学部
講師 篠村 恭子

2021年2月18日(木) 12:00～13:00
事前申込制オンラインミーティング
参加希望者は下記連絡先へご連絡ください

つなげる、つたえる、ひろげる！
ダイバーシティ推進室 特任助教 神田 彩
〒690-8504 島根県松江市高川町1060
e-mail: a-sawada@soc.shimane-u.ac.jp
Tel: 0852-32-6157 (内線: 3400)



◎第47回 SAN' INご縁ネットオンラインミーティング

【日 時】令和3年3月26日(金) 12:00～13:00

【話題提供】国立米子工業高等専門学校 教養教育科 講師 原田桃子氏

「高専における非専門科目の科目横断授業実践と学生への影響について」

島根大学、米子高専の教職員計19名の参加があった。

初めに、原田先生から工業高等専門学校では文系科目に対する興味関心があまり高くない学生が多いということを背景に、米子高専で試験的に実施した、歴史と外国語の横断講義の内容についてご紹介いただいた。

原田先生が実践してみると、歴史と英語の先生2人による合同授業という新鮮さによって学生の学ぶ意欲を引き出すことができ、授業内容の理解や関心の上昇に繋がるという効果がみられた一方で、難易度設定を誤ったり教員同士の連携が不足したりすると、学生の集中力を低下させてしまう、またひとつの授業内に情報量を詰め込みすぎると学生がパンクしてしまい、かえって学習意欲を削いでしまうという課題も見られたとのことだった。

参加者からは、専門科目と外国語の連携の実践についてのコメントや、学習指導要領の変化への高専における対応に関する質問等があった。

オンラインではあるが、実際に話を聞くと、思わぬ繋がりが見えてきて、充実した時間になった。

The 47th meeting of Network in SANIN

高専における非専門科目の科目横断授業実践と学生への影響について

今日、科目横断授業の必要性が議論されているなかで、米子工業高等専門学校では、歴史Ⅰ・英語総合の教員による科目横断的な合同授業を行ってきました。今回は、この合同授業の実践報告を通して、学生の授業の理解度の向上、知識の定着、授業態度などにどのような影響があるのかを検討していきます。

【話題提供者】国立米子工業高等専門学校 教養教育科
講師 原田 桃子

2021年3月26日(金) 12:00～13:00
事前申込制オンラインミーティング
参加希望者は下記連絡先へご連絡ください

つなげる、つたえる、ひろげる！
ダイバーシティ推進室 特任助教 津田 彩
〒690-8504 島根県松江市高川津町1060
e-mail : sa-sawada@soc.shimane-u.ac.jp
Tel : 0852-32-6157 (内線 : 3400)



● 異分野交流×連携プラットフォーム

令和2年6月、特に異分野同士の研究交流を活発化させ、新しい研究の芽を育むことを目的として、異分野交流・連携プラットフォームを開設した。

このサイトは、大学の研究者総覧やリサーチマップなど、既に行った研究の実績を掲載するサイトとは異なり、研究者が「今何に関心を持っているか」を可視化するサイトとなっている。

掲載情報は、簡単な研究紹介、研究上ご自身ができること、求めるコラボレーションについて、の3点のみで、具体的な共同研究の形がはっきりと見えていなくてもサイトの参加登録画面から気軽にご投稿いただけるようになっている。情報を掲載できるのは、島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校に所属する研究者で異分野との交流や連携に興味関心のある研究者・大学院生の方で、会員登録等不要なオープンなサイトなので、閲覧やコメントは企業等に所属の学外者の方を含め、どなたでも可能となっている。

異分野交流×連携プラットフォームへのアクセス

<https://research-beyond-boundaries.diversity.shimane-u.ac.jp>



VI-2. 島根大学の取組

● メンター制度

島根大学女性教員メンタープログラムは、本学において一定の職務経験を持つ教員との交流を通じて、新任の女性教員が大学教員として成長していくことを支援するものである。このプログラムでは、相談する側の新任教員をメンティ、メンティを支援する教員をメンターと呼ぶ。メンタープログラムは、他大学や、大学以外の多くの組織で広く導入されており、その効果が認められている。今後のキャリア形成について、職場の人間関係、ライフイベントと仕事の両立などについて、相談したい場合にぜひご活用いただきたい。

《メンタープログラムとは…》

- メンタープログラムは、メンターとの対話やメンターの助言を通してメンティの教育・研究活動、キャリア形成等を支援するものである。
- メンティが抱える課題の解決は、メンティが自発的に解決するものであり、メンターはそれを支援する立場である。
- メンターとメンティは、信頼できる関係性を築くことが第一に重要である。
- メンターは、自身の経験、知恵、ネットワークをもとに、メンティを支援する。

《対 象》

1. メンティ：島根大学着任後5年未満の女性教員
2. メンター：島根大学に所属する教員（性別を問わない）

※メンターは、メンティからの要望をもとにダイバーシティ推進室が選出する。

島根大学女性教員メンタープログラム

メンターのためのガイド

1. メンタープログラムを理解する
 - メンタープログラムは、メンティとの対話やメンターの助言を通してメンティの教育・研究活動、キャリア形成等を支援するものである。
 - メンティが抱える課題の解決は、メンティが自発的に解決するものであり、メンターはそれを支援する立場である。
 - メンターは、自身の経験、知恵、ネットワークをもとに、メンティを支援する。
 - メンティと信頼できる関係性を築くことが第一に重要である。
 - メンタリングの進め方について困った時には、ダイバーシティ推進室に相談することができる。
 - メンタリングのノウハウやプログラムの改善点をダイバーシティ推進室に報告する。
2. メンタリングの目的～メンターの多様な役割を理解する～
 - メンタープログラムにおけるメンタリングは教育・研究活動やキャリア形成における課題への支援が主となる。具体的には、授業の手法、学生への接し方、研究内容、研究と家庭の両立、研究の継続、スキルアップの方向、進路や分野選択、将来展望、研究環境などの課題への支援である。
 - メンターは、自身の教育研究活動の経験を活かし、課題を進めるにあたって必要な知識やスキルを助言する。
 - 結婚・出産・育児・介護などのライフイベントと仕事の両立についてアドバイスする。
 - メンターはメンティのロールモデルになる場合もある。
 - 自分のネットワークを利用して、メンティのネットワークの広がりも助ける。
3. メンタリングの進め方
 - メンタリングの手続きは、主に直接面談、またはMicrosoft Teams等を用いたオンライン面談とするが、メンターとメンティの双方の合意があればメール相談も可とする。
 - メンティによる申請書をもとに、ダイバーシティ推進室からメンティに連絡をとり、メンティが希望するメンタリングの内容を確認する。
 - ダイバーシティ推進室は適当と思われるメンターに連絡をとり、対応可能なメンターをマッチングする。

島根大学女性教員メンタープログラム

メンティのためのガイド

1. メンタープログラムを理解する
 - メンタープログラムは、メンターとの対話やメンターの助言を通してメンティ自身の教育・研究活動、キャリア形成の検討の参考にすることもできる。
 - メンティが抱える課題の解決は、メンティが自発的に解決するものであり、メンターはそれを支援する立場である。
 - メンターは気軽に相談できる相手であるが、信頼できる関係性を築くことが第一に重要である。
 - メンターに話しかけることは無理に話さなくてもよい。
 - メンターが忙しい時、余裕がない時にはメンタリングを受けられない場合もある。
 - メンターとの関係に困ったときは、ダイバーシティ推進室に相談できる。
2. メンタリングの目的～自分自身の考えを整理する～
 - メンタープログラムにおけるメンタリングは教育・研究活動やキャリア形成における課題への支援が主となる。具体的には、授業の手法、学生への接し方、研究内容、研究と家庭の両立、研究の継続、スキルアップの方向、進路や分野選択、将来展望、研究環境などの課題への支援である。
 - メンターからどのような支援を受けたいのか、メンター制度を利用する目的を明確にしておく。
 - 将来的な自己イメージを持ち、今の自分が達成すべき課題は何かを考え、整理しておく。
 - 今の自分にとって必要な情報、知識、スキルが何かを考えておく。
3. メンタリングの進め方
 - メンタリングの手続きは、主に直接面談、またはMicrosoft Teams等を用いたオンライン面談とするが、メンターとメンティの双方の合意があればメール相談も可とする。
 - メンティによる申請書をもとに、ダイバーシティ推進室からメンティに連絡をとり、メンティが希望するメンタリングの内容を確認する。
 - ダイバーシティ推進室は適当と思われるメンターに連絡をとり、対応可能なメンターをマッチングする。

島根大学女性教員メンタープログラムガイド

● 島根大学研究助成情報検索システムRegiSU (レギス)

文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)の取組みのひとつとして、政府系競争的資金事業や民間財団助成金などの公募情報を一元化した「島根大学研究助成情報検索システムRegiSU (Research grants information system for Shimane University researchers)」を立ち上げた。「自分の研究にあった研究助成情報を探し出すのに時間がかかってしまう」という多忙な研究者の方々からの声にお応えして、必要な情報を、必要とする研究者にタイムリーにお届けすることを目指している。政府系競争的資金事業や民間財団助成金など、島根大学に届く全ての研究助成情報と、学内資金による公募情報もすべて、このシステムに一元化。学外の情報サイトとは異なり、学内締切り等のローカル情報も表示される。

これまでは学内の複数の担当部署から全情報を全教員にメール配信されていたが、「新着情報メール配信」機能により、自分の希望条件にあった情報だけをメールで受け取ることが可能になる。研究分野、取得目的、助成金額、キーワードなどで検索して、希望する内容にマッチした公募情報を見つけやすくなる。

令和2年度中は、研究助成情報の入力を徹底し、令和3年4月からのフル稼働を目指す。また、情報の登録を担当する事務組織およびエンドユーザーである全教員に対して、RegiSUの利用が浸透するよう広く周知を行うとともに、利用者から意見を収集し、改善すべき点を把握する。

《情報登録を担当する部署》

- 企画部研究協力課 学術研究支援グループ
- 企画部研究協力課 産学連携グループ
- 企画部国際交流課 国際交流グループ
- 総務部人事労務課 労務管理グループ

上記以外で、外部資金もしくは自己資金により研究助成事業を行う部署

《企画・実施》

島根大学 ダイバーシティ推進ワーキンググループ 女性研究リーダー育成部門
E-Mail: beyond-boundaries@edu.shimane-u.ac.jp

《システム担当》

島根大学 企画部 研究協力課
TEL : 0852-32-6632 E-Mail : rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp

**必要な研究資金情報を
タイムリーにお届けします！**

 **島根大学研究助成情報検索システム**
Research grants information system for Shimane University researchers

文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)の取組みのひとつとして、「島根大学研究助成情報検索システムRegiSU(Research grants information system for Shimane University researchers)」を立ち上げました。

**レギス
RegiSU**

これまでとの違いは？

- 本学に届く全ての研究助成情報を一元化**
政府系競争的資金事業や民間財団助成金など島根大学に届く全ての研究助成情報と、学内資金による公募情報もすべて、このシステムに一元化します。学外の情報サイトとは異なり、学内締切り等のローカル情報も表示されます。
- 自分が欲しい情報だけをメールで受信**
これまでは学内の複数の担当部署から全情報を全教員にメール配信されていたが、「新着情報メール配信」機能により、自分の希望条件にあった情報だけをメールで受け取ることができます。
- 絞り込み検索可能**
研究分野、取得目的、助成金額、キーワードなどで検索して、希望する内容にマッチした公募情報を見つけやすくなります。

ご意見・ご要望等をお寄せください
研究者の皆様にとってより使いやすいものにするため、今後も改良を続けてゆく予定です。ご意見やご要望などがございましたら、お気軽にお知らせください。

こちらからアクセス！
島根大学 RegiSU

※RegiSUは学内環境からのみ閲覧可能です。

企画・実施 島根大学 ダイバーシティ推進WG 女性研究者育成部門
E-Mail: beyond-boundaries@edu.shimane-u.ac.jp

システム担当 島根大学 企画部 研究協力課
TEL:0852-32-6632 E-Mail:rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp

※RegiSUは学内環境からのみ閲覧可能

●2020年度 島根大学女性研究リーダー育成支援事業(プロジェクト創出型)

学問分野の境界を越えた連携・融合により、新たな知見の発見や複数の分野間にまたがる社会的課題の解決、新たな研究領域の開拓等を目指すものを支援している。

●若手女性研究者を対象とした科学研究費補助金獲得支援事業

若手女性研究者による科学研究費補助金の獲得を目指す研究プロジェクトに対して、研究費や科研費アドバイザー配置の支援を行っている。研究データを活用した選考により選ばれた10名に対し、計4,400千円の研究費支援とURAの進捗管理の下に、2～3名の科研費アドバイザーから助言を受けた。その結果、この10名のうち、基盤研究Bについては2名、基盤研究C又は若手研究については6名の計8件の研究課題が採択され(採択率80%)、令和3年度科学研究費として15,100千円を受け入れた。

●国際学術雑誌投稿支援事業

研究成果の国際的発信を強化するため、論文投稿料、英文校閲料等の関連経費への補助を行っており、令和2年度は3件を採択した。

●第1回オンライン英語カフェ

【日 時】令和3年1月18日(月) 17:30～18:30

国際交流センターとダイバーシティ推進室の共催で、協定校であるアイスランド大学と「オンライン英語カフェ」を実施した。アイスランド大学から教員が1名、島根大学から教職員が6名、大学院生が1名参加し、「コロナ禍における教育」をテーマにディスカッションした。

アイスランド大学でも島根大学でも昨年4月からすべての授業が基本的にオンラインになったことは共通しており、オンライン授業への対応に教員も学生も苦慮したという点では共通していた。しかし、学費については、入学金の他毎年授業料を支払わなくてはならない島根大学に対し、アイスランドでは国公立大学の授業料が無料で、学生登録料として日本円で年間7万円が必要なかただけであるため、経済的負担の大きさに対する不安は日本の学生の方が大きいとのことだった。国際交流センターとダイバーシティ推進室では、大学のダイバーシティの推進という共通の目的で今後も定期的にオンライン英語カフェを開催する予定である。



VI-3. 島根県立大学の取組

◎女性研究リーダー育成

- 女性研究者及び看護職のキャリアアップ支援、女性研究者のリーダー育成を積極的に行っている大学等の有益な情報をオンラインにより入手した。
- 女性のキャリア開発、キャリアアップ支援に関する実践者等の助言を得ながら、女性研究リーダーの育成や女性看護職が副院長等の上位職を目指すために必要なeポートフォリオの基盤を開発した。
- 女性研究者がリーダーとなって、連携機関と協力して行う共同研究を支援した。

VI-4. 松江工業高等専門学校

◎松江高専女性研究者育成支援事業

令和2年度に松江高専女性研究者育成支援事業を公募し、3課題を採択した。

◎松江高専女性研究者共同研究事業

令和2年度に松江高専女性研究者共同研究事業を公募し、1課題を採択した。

VI-5. 米子工業高等専門学校

◎女性研究リーダー育成支援事業

- 研究代表者として本事業実施機関教員との共同研究を実施する女性教員に対して研究費を配分する事業を令和2年度から実施した。令和2年度は公募の結果、1課題を採択した。

◎女性教員キャリアアップ講演会の実施

- 女性教員がキャリアアップするうえでのキャリア継続・研究実績積み上げの参考及び異分野交流を目的として、女性教員キャリアアップ講演会を開催した。

(令和元年度)

令和元年12月11日「世界の乾燥地と食料生産」

(鳥取大学 教授 坪 充氏)

令和2年1月16日「技術者・研究者に求められるLA-」(NTT data univ. 取締役 角 正樹氏)

1月23日「メディアの変遷」(島根大学 准教授 浜田幸絵氏)

1月31日「がん研究と人間力」(鳥取大学 教授・医学部副学部長 岡田 太氏)

2月14日「科学者たちが残した言葉」(東京工業大学 講師 多久和理実氏)

(令和2年度)

令和2年12月2日「科学者たちが残した実験をたどる」(東京工業大学 講師 多久和理実氏)

12月23日「What is Marketing?!」(公立鳥取環境大学 講師 竹内由佳氏)

令和3年1月21日「小泉八雲について」(小泉八雲記念館 館長 小泉 凡氏)



資料

島根大学男女共同参画の状況

① 職名別・性別 教員数(令和2年5月)

単位：人

	男	女	計	女性比率 %
学長	1	0	1	0.0
理事*	4	0	4	0.0
副学長**	3	1	4	25.0
教授	223	31	254	12.2
准教授	162	31	193	16.1
講師(常勤)	68	35	103	34.0
助教	161	71	232	30.6
小計	622	169	791	21.4
助手	2	4	6	66.7
計	624	173	797	21.7

* 非常勤理事は除く、理事が副学長を兼ねている場合は理事に計上

**理事又は副学長が教授を兼ねている場合、教授にはその分を計上してない

② 意思決定機関等における性別構成(令和2年5月)

単位：人

	男	女	計	女性比率 %
学長補佐等*	4	1	5	20.0
経営協議会(学内委員)、 教育研究評議会委員**	31	3	34	8.8
部局長等	49	1	50	2.0
監事**	1	0	1	0.0
小計	85	5	90	5.6
非常勤理事	2	0	2	0.0
経営協議会等(学外委員)	7	2	9	22.2
非常勤監事	0	1	1	100.0
小計	9	3	12	25.0
計	94	8	102	7.8

* 理事及び副学長は除く

**学外委員、非常勤理事等は除く

③ 部局別・性別教員数(令和2年5月)

単位：人

学部・学科	教員数(本務者)													
	教授		准教授		講師(常勤)		助教		助手		小計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	女性比率%
法文学部	16	4	22	7	5	2	0	0	0	0	43	13	56	23.2
教育学部	33	7	18	4	6	6	0	2	0	0	57	19	76	25.0
人間科学部	5	3	9	2	2	3	1	2	0	0	17	10	27	37.0
医学部	50	9	22	6	5	7	40	24	2	2	119	48	167	28.7
総合理工学部	44	0	35	1	10	3	21	4	0	1	110	9	119	7.6
生物資源科学部	31	3	30	5	2	0	16	7	0	0	79	15	94	16.0
大学院	10	2	3	0	0	0	0	0	0	0	13	2	15	13.3
附属病院	6	0	10	0	32	7	65	24	0	0	113	31	144	21.5
その他	28	3	13	6	6	7	18	8	0	1	65	25	90	27.8
計	223	31	162	31	68	35	161	71	2	4	616	172	788	21.8

④ 常勤職員の職系別・職名別職員数(令和2年5月)

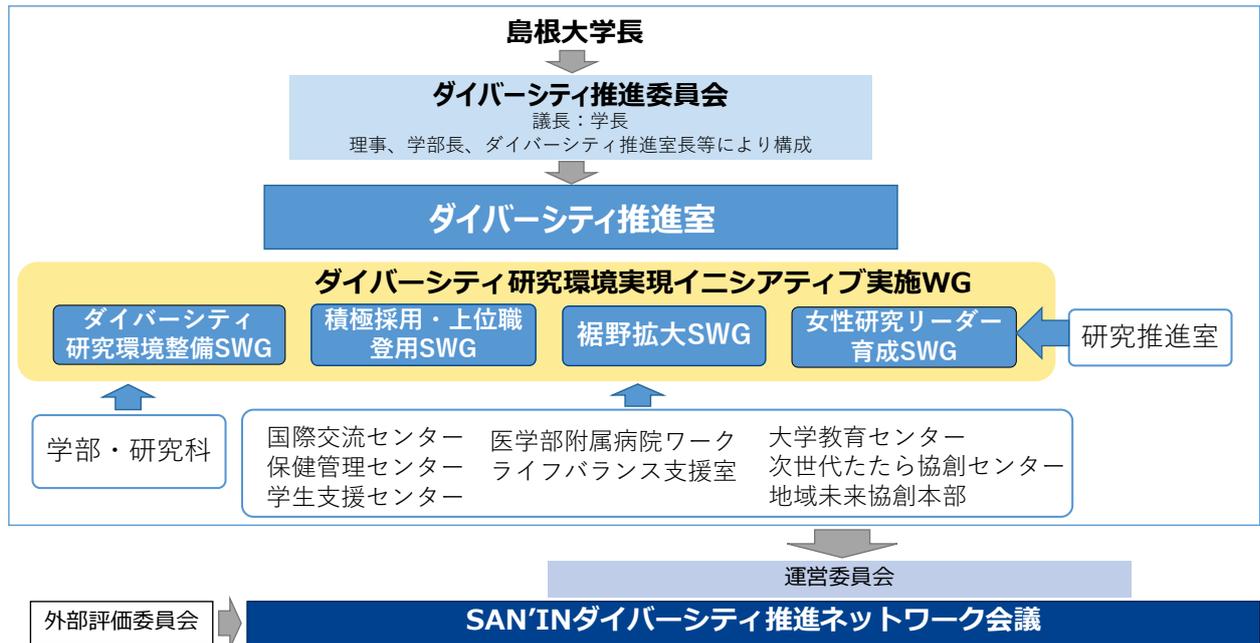
単位：人

職名	事務系*		技術技能系*		医療系*		教務系*		その他*		計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	女性比率%
課長相当職以上	25	2	1	0	9	6	0	0	0	0	35	8	43	18.6
課長補佐、専門員等	30	4	16	15	0	0	0	0	0	0	46	19	65	29.2
係長、専門職員等	32	25	4	3	0	30	0	0	0	0	36	58	94	61.7
主任等	15	27	5	4	22	74	0	0	0	0	42	105	147	71.4
その他一般職員	71	100	36	34	235	782	0	0	1	0	343	916	1259	72.8
計	173	158	62	56	266	892	0	0	1	0	502	1106	1608	68.8

* 職系の分類は、学校基本調査の分類によるもの

実施体制

組織



構成

ダイバーシティ推進委員会

● 令和元年度

学長	服部 泰直
理事(総務・労務担当)	藤田 達朗
理事(企画・学術研究担当)	秋重 幸邦
理事(教育・学生支援担当)	荒瀬 榮
理事(医療・附属病院担当)	井川 幹夫
理事(大学経営・財務担当)	吉田 靖
法文学部長	田中 則雄
教育学部長	加藤 寿朗
人間科学部長	村瀬 俊樹
医学部長	並河 徹
総合理工学部長	廣光 一郎
生物資源科学部長	井藤 和人
学長特別補佐	河野 美江

● 令和2年度

学長	服部 泰直
理事(総務・労務担当)	藤田 達朗
理事(学術研究・イノベーション創出担当)	秋重 幸邦
理事(企画、教育・学生支援担当)	荒瀬 榮
理事(医療・附属病院担当)	井川 幹夫
理事(大学経営・財務担当)	長澤 公洋
法文学部長	丸橋 充拓
教育学部長	加藤 寿朗
人間科学部長	村瀬 俊樹
医学部長	鬼形 和道
総合理工学部長	廣光 一郎
生物資源科学部長	井藤 和人
学長特別補佐	河野 美江

I

事業概要・実施体制

II

実施内容一覧

III

ダイバーシティ
研究環境の整備強化

IV

女性教員の積極採用と
上位職登用

V

女性研究者の裾野拡大

VI

女性研究リーダー育成

資料

ダイバーシティ推進室スタッフ

●令和元年度

理事・副学長(総務・労務担当)/ダイバーシティ推進室長	藤田 達朗
学長特別補佐(男女共同参画担当)/保健管理センター 教授	河野 美江
室員/法文学部 法経学科法学分野 准教授	谷口 智紀
室員/医学部医学科・産科婦人科学講座 助教	皆本 敏子
室員/医学部看護学科基礎看護科学分野 講師	宮本 まゆみ
室員/生物資源科学部生命工学科 准教授	丸田 隆典
室員/生物資源科学部生命工学科 准教授	小川 貴央
室員/教育・学生支援機構大学教育センター 准教授	岩瀬 峰代
室員/研究推進室 助教	小竹 雅子
室員/教育・学生支援機構大学教育センター 准教授	丸山 実子(10月～)
室員/ダイバーシティ推進室 特任助教	澤田 彩(1月～)
事務担当 人事労務課課長	井上 徹
人事労務課課長補佐	山崎 健治
人事労務課企画・労務管理グループ係長	大串 健太郎
人事労務課企画・労務管理グループ係長	青木 孝恵(11月～)
人事労務課企画・労務管理グループ主任	武政 恵美子
人事労務課企画・労務管理グループ事務補佐員	高木 なぎさ(11月～)

●令和2年度

理事・副学長(総務・労務担当)/ダイバーシティ推進室長	藤田 達朗
学長特別補佐(男女共同参画担当)/保健管理センター 教授	河野 美江
室員/法文学部法経学科 講師	高橋 正太郎
室員/教育学研究科 教授	丸橋 静香
室員/人間科学部福祉社会コース 助教	足立 孝子
室員/医学部医学科産科婦人科学講座 助教	皆本 敏子
室員/医学部看護学科基礎看護学講座 講師	宮本 まゆみ
室員/総合理工学部地球科学科 教授	亀井 淳志
室員/生物資源科学部生命科学科 准教授	小川 貴央
室員/教育・学生支援機構大学教育センター 准教授	岩瀬 峰代
室員/教育・学生支援機構大学教育センター 准教授	丸山 実子
室員/地域未来協創本部 准教授	服部 大輔
室員/ダイバーシティ推進室 特任助教	澤田 彩
事務担当 人事労務課課長	井上 徹
人事労務課企画・労務管理グループ係長	山本 智美
人事労務課企画・労務管理グループ係長	青木 孝恵
人事労務課企画・労務管理グループスタッフ	草野 楓(~1月)
人事労務課企画・労務管理グループ特定職員	高木 なぎさ
人事労務課企画・労務管理グループ特定職員	増田 理沙(7月～)
人事労務課企画・労務管理グループ特定職員	武田 珠里(2月～)

国立大学法人島根大学ダイバーシティ推進委員会規則

(平成18年島大規則第148号)

(平成18年7月18日制定)

[令和元年10月15日最終改正]

● 設 置

第1条 国立大学法人島根大学(以下「本学」という。)に、本学におけるダイバーシティを推進するため、国立大学法人島根大学ダイバーシティ推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

● 審議事項

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
- 一 ダイバーシティ推進に係る基本方針に関すること。
 - 二 ダイバーシティ推進に係る方策の策定に関すること。
 - 三 ダイバーシティ推進状況の点検、評価及び改善に関すること。
 - 四 その他ダイバーシティの推進に関すること。

● 組織

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 学長
 - 二 各理事
 - 三 各学部長
 - 四 自然科学研究科長
 - 五 医学部附属病院長
 - 六 事務局長
 - 七 ダイバーシティ推進室長
 - 八 その他学長が必要と認めた者
- 2 前項第8号の委員の任期は3年とし、再任を妨げない。
 - 3 委員会に委員長を置き、委員長は、学長をもって充てる。

● 会議

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、議長は、委員長をもって充てる。
- 2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。
 - 3 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
 - 4 委員会は、出席委員の過半数をもって議決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

● 委員以外の者の出席

第5条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

● 事務

第6条 委員会の事務は、教育・学生支援部学生支援課、医学部総務課及び医学部学務課の協力を得て、総務部人事労務課において処理する。

● 雑則

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成18年7月18日から施行する。

附 則(平成20年11月25日一部改正) この規則は、平成20年11月25日から施行する。

附 則(平成24年3月19日一部改正) この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成24年7月18日一部改正) この規則は、平成24年7月18日から施行し、
平成24年6月11日から適用する。

附 則(平成25年3月14日一部改正) この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成30年3月20日一部改正) この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月22日一部改正) この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和元年10月15日一部改正) この規則は、令和元年10月15日から施行する。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業推進に伴うSAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議規約

（令和元年11月5日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議承認）

●名 称

第1条 本規約で設置する組織は、「SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議」（以下「ネットワーク会議」という。）と称する。

●目 的

第2条 ネットワーク会議は、山陰地方に所在する高等教育機関、自治体、企業その他法人が相互に連携・協力し、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（以下「ダイバーシティ事業」という。）の推進を図るとともに、広く地域の知見を集め、かつ、地域・全国へ情報発信し、もって山陰地方のダイバーシティを推進することを目的とする。

●業 務

第3条 ネットワーク会議は、ダイバーシティ事業の全体の方針を決定する。

●構成員

第4条 ネットワーク会議の構成員は、ダイバーシティ事業の代表機関（島根大学をいう。以下同じ。）及び共同実施機関（島根県立大学、松江工業高等専門学校及び米子工業高等専門学校をいう。）並びに協力機関（ダイバーシティ事業の趣旨に賛同する機関をいう。）とする。

●会 長

第5条 ネットワーク会議に会長を置き、会長は、代表機関の学長をもって充てる。

2 会長は、ネットワーク会議を代表し、その業務を総理する。

●副会長

第6条 ネットワーク会議に副会長を置き、副会長は、代表機関のうちから、会長が指名する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

●運営委員会

第7条 ネットワーク会議に、ネットワーク会議にかかる企画・立案に関する事項を審議するため、運営委員会を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

●秘密保持

第8条 構成員は、ネットワーク会議において知り得た個人情報及び他の構成員に関して知り得た秘密について、ネットワーク会議の承認を得ることなく、他へ漏えいしてはならない。

●事務局

第9条 ネットワーク会議の会務を処理するため、代表機関に事務局を置く。

●雑 則

第10条 この規約に定めるもののほか、ネットワーク会議の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則 この規約は、令和元年11月5日から施行する。

SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議運営委員会規約

(令和元年11月5日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議承認)

●趣 旨

第1条 この規約は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」事業(以下「ダイバーシティ事業」という。)推進に伴うSAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議規約第7条第2項の規定に基づき、SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議(以下「ネットワーク会議」という。)に置く運営委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

●任 務

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 ダイバーシティ事業全体の行動計画並びに各取組の進捗及び目標達成度の確認に関する事。
- 二 ダイバーシティ事業全体の課題及び対応策に関する事。
- 三 ダイバーシティ事業全体の次期計画に関する事。
- 四 その他委員会運営に必要な事項に関する事。

●組 織

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 代表機関の理事・副学長(総務・労務担当)
 - 二 プロジェクト・チームの座長
 - 三 共同実施機関における実施責任者
 - 四 その他議長が必要と認める者
- 2 委員会の下に、次に掲げる取組の実施を推進するとともに、関係機関との協働体制を確保するため、次のプロジェクト・チームを置く。
- 一 ダイバーシティ研究環境整備強化
 - 二 女性教員の積極採用と上位職登用
 - 三 女性研究者裾野拡大
 - 四 女性研究リーダー育成
- 3 プロジェクト・チームには座長を置き、代表機関の実施責任者が指名する者をもって充てる。

●議 長

第4条 委員会に議長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

- 2 議長は、委員会を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、前条第1項第2号の委員のうちから議長が指名した者がその職務を代行する。

●会議の成立

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

●代理出席

第6条 委員が事故等のため委員会に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

●委員以外の者の出席

第7条 議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

●事務

第8条 委員会に関する事務は、ネットワーク会議事務局において処理する。

●その他

第9条 この規約に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 この規約は、令和元年11月5日から施行する。

SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議外部評価委員会規約

(令和元年11月5日 SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議承認)

●趣 旨

第1条 この規約は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」事業(以下「ダイバーシティ事業」という。)推進に伴うSAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議の事業に対する評価及びダイバーシティ事業の改善を図るため設置する外部評価委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

●任 務

第2条 委員会は、ダイバーシティ事業の事業計画の実施状況等について、毎年度評価を行い、次の提言等を行う。

(1) 3年目には委員会による中間評価を行い、4年目以降の代表機関及び共同実施機関内での実施方法、実施機関外への発信・普及のあり方に関する提言を示す。

(2) 6年目(実施期間終了半年前)には委員会によって終了時評価を行い、ダイバーシティ事業全体の成果を確認し、ダイバーシティ事業実施後の在り方について提言をまとめる。

●組 織

第3条 委員会は、ネットワーク会議構成員以外の学外の有識者若干名の委員をもって組織する。

2 委員は、ネットワーク会議会長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

●会 議

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長が事故等により不在の場合は、副委員長がその職務を代行する。

●委員以外の出席

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

●秘密保持

第6条 委員及び前条の規定により委員会に出席した者は、委員会で知り得た秘密及び個人情報を正当な理由なく漏らしてはならない。委員にあつては、委員を退いた後も同様とする。

●庶 務

第7条 委員会に関する事務は、ネットワーク会議事務局において処理する。

●その他

第8条 この規約に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 1 この規約は、令和元年11月5日から施行する。

2 この規約の施行後最初に任命される第3条第1項の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、令和3年3月31日までとする。

島根大学ダイバーシティ推進室規則

(平成20年島大規則第66号)

(平成20年7月22日制定)

[令和2年9月23日最終改正]

●趣 旨

第1条 この規則は、島根大学ダイバーシティ推進室(以下「推進室」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

●目 的

第2条 推進室は、島根大学(以下「本学」という。)において、ダイバーシティの推進、女性研究者支援及びワーク・ライフ・バランスの推進に関する具体的事業を企画・立案・実施することにより、より多様な人材がその能力を発揮できる環境を整え、本学の教育・研究の質をより一層向上させることを目的とする。

●業 務

第3条 推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 ダイバーシティ推進のための具体的方策の計画及び実施に関すること。
- 二 女性研究者支援に関すること。
- 三 ワーク・ライフ・バランスの推進に関すること。
- 四 ダイバーシティに関する意識啓発及び相談事業に関すること。
- 五 その他ダイバーシティの推進に関すること。

●組 織

第4条 推進室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 室長
- 二 室員
- 三 その他必要な職員

●室 長

第5条 室長は、理事又は本学の教員のうちから、学長が任命する。

- 2 室長は、推進室の業務を掌理する。
- 3 室長の任期は、3年とし、再任を妨げない。

●室 員

第6条 室員は、次の各号に掲げる職員とする。第1号の室員は学部長の申出に基づき、第2号の室員は機構長の申出に基づき、第3号の室員は室長の申出に基づき、学長が任命する。

- 一 各学部の教員 各1名
 - 二 機構の教員 若干名
 - 三 その他推進室が必要と認めた者
- 2 室員の任期は、3年とし、再任を妨げない。

●ダイバーシティ推進室会議

第7条 推進室の業務の円滑な実施を図るとともに、推進室の運営に関する事項を審議するために、ダイバーシティ推進室会議(以下「推進室会議」という。)を置く。

- 2 推進室会議は、室長及び室員で構成する。

- 3 推進室会議に議長を置き、室長をもって充てる。
- 4 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。
- 5 推進室会議は、委員の3分の2以上が出席しなければ会議を開くことができない。ただし、委任状を提出したものについては、出席したものとみなす。
- 6 推進室会議が必要と認めるときは、推進室会議に室員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

●ダイバーシティ推進ワーキンググループ

第8条 ダイバーシティを実効的に推進するため、推進室に、ダイバーシティワーキンググループとして次の各号に掲げる部門を置く。

- 一 ダイバーシティ研究環境の整備強化部門
- 二 女性教員の積極採用と上位職登用部門
- 三 女性研究者の裾野拡大部門
- 四 女性リーダー育成部門

2 ダイバーシティ推進ワーキンググループに関し必要な事項は、別に定める。

●事務

第9条 推進室に関する事務は、総務部人事労務課において処理する。

●雑則

第10条 この規則に定めるもののほか、推進室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成20年7月22日から施行する。
- 2 この規則施行後最初に任命される第4条第1項の室長の任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。
- 3 この規則施行後最初に任命される第4条第3項の室員の任期は、第7条第2項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

附 則(平成24年3月19日一部改正)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成24年7月18日一部改正)

- 1 この規則は、平成24年7月18日から施行し、平成24年6月11日から適用する。
- 2 島根大学男女共同参画推進室専任教員の再任手続きに関する細則(平成20年島大細則第9号)は、廃止する。

附 則(令和元年5月14日一部改正)

- 1 この規程は、令和元年5月14日から施行する。
- 2 島根大学男女共同参画推進室運営委員会規則(平成24年島大規則第124号)は、廃止する。

附 則(令和元年10月15日一部改正)

- 1 この規程は、令和元年10月15日から施行する。
- 2 学長は、第5条第1項にかかわらず、この規則施行の日において、この規則施行の日の前日に島根大学男女共同参画推進室長であった者をダイバーシティ推進室長として任命するものとし、第5条第3項の規定にかかわらず、任期は令和3年3月31日までとする。

附 則(令和2年9月23日一部改正)

この規則は、令和2年10月1日より施行する。

島根大学ダイバーシティ推進ワーキンググループ細則

(令和2年島大細則第17号)

(令和2年9月23日制定)

●趣 旨

第1条 この細則は、国立大学法人島根大学ダイバーシティ推進室規則(平成20年島大規則第66号)第8条第2項の規定に基づき、国立大学法人島根大学ダイバーシティ推進ワーキンググループ(以下「ワーキンググループ」という。)に関し必要な事項を定める。

●所掌事項

第2条 ダイバーシティ研究環境の整備強化部門は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 一 啓発活動の企画及び実施に関する事。
- 二 ダイバーシティに係る教職員及び学生に対する意識調査及び実態調査の実施、分析及び調査報告書の作成に関する事。
- 三 ダイバーシティ推進状況の評価に関する事。
- 2 女性教員の積極採用と上位職登用部門は、次の各号に掲げる事項を所掌する。
 - 一 女性教員の積極採用と上位職登用に係る問題点の調査、分析に関する事。
 - 二 研究者在職者、採用者における女性研究者比率に関する事。
 - 3 女性研究者の裾野拡大部門は、次の各号に掲げる事項を所掌する。
 - 一 SUN' IN Girlsのイベントに関する事。
 - 二 ロールモデル集等、裾野拡大に向けた広報に関する事。
 - 三 「次世代たたら協創センター」との連携に関する事。
 - 4 女性リーダー育成部門は、次の各号に掲げる事項を所掌する。
 - 一 女性研究リーダー育成支援事業等、各種支援事業に関する事。
 - 二 異分野交流・連携プラットフォームに関する事。
 - 三 「研究推進室」との連携に関する事。

●組 織

第3条 ワーキンググループの各部門は、それぞれ若干名の部門員をもって構成する。

- 2 部門員は、島根大学ダイバーシティ推進室員から理事(総務・労務担当)が指名するものとし、部門員を指名するに当たり、男女比、職種及び職場のバランス並びに松江キャンパス及び出雲キャンパスのバランス等を考慮するものとする。
- 3 必要があれば、部門員として、島根大学ダイバーシティ推進室員以外の者を加えることができる。

●任 期

第4条 前条の部門員の任期は1年とし、再任を妨げない。

●部門の代表者

第5条 ワーキンググループの各部門に代表者を置き、代表者は、部門員の互選により選出する。

- 2 部門の会議は、代表者が招集し、議長は代表者をもって充てる。
- 3 代表者に事故があるときは、あらかじめ代表者が指名する部門員がその職務を代理する。

●事 務

第6条 ワーキンググループの事務は、総務部人事労務課において処理する。

●雑 則

第7条 この細則に定めるもののほか、ワーキンググループに関し必要な事項は別に定める。

●附 則

この細則は、令和2年10月1日から施行する。

国立大学法人島根大学次世代育成支援事業主行動計画(第5期)

島根大学では、教職員の仕事と生活の両立を推進するとともに、働きやすい環境の整備を目指し、教職員がそれぞれの能力を十分発揮できるよう、次の行動計画を策定する。

1 計画期間 平成30年4月1日から平成34年3月31日までの4年間

2 内 容

目 標 1 仕事と生活の両立支援関連制度を周知し、利用しやすい環境を整備する。

【対 策】(平成30年4月～)

- ホームページ、ニュースレター等を通じて、子どもの出生時における男性教職員の育児のための休暇及び育児休業等について周知・啓発を行い、積極的な利用を促す。
- 期間中の年度毎に、両立支援関連制度に関する利用状況を調査し、定期的に公表することにより意識向上を図るとともに、さらに利用しやすい環境となるよう整備を行う。

目 標 2 時間外労働の縮減を図る。

【対 策】(平成30年4月～)

- 期間中の年度毎に、時間外労働時間数を定期的に取りまとめ、実態を把握するとともに、公表することにより意識向上を図る。
- 時間外労働縮減の重要性について、会議等を通じて管理者及び職員に対し啓発を行う。
- 原則として週2回定時退勤日を設け、定時退勤の徹底に努める。

目 標 3 年次有給休暇の取得を促進する。

【対 策】(平成30年4月～)

- 期間中の年度毎に、年次有給休暇の取得状況について調査を行い、実態を把握するとともに、公表することにより意識向上を図る。
- ゴールデンウィーク、夏季休暇、年末年始などと組み合わせた休暇の取得を促進するなど、休暇を取得しやすい環境づくりに努め、取得の促進をはかる。

国立大学法人島根大学 女性活躍推進のための事業主行動計画(第2期)

島根大学では、女性が安心して働きつづけ、いきいきと活躍できる環境の整備を行うため、次の行動計画を策定する。

1 計画期間 平成30年4月1日から平成34年3月31日までの4年間

2 内 容

目 標 1 女性研究者比率22%以上とする。

【取組内容】(平成30年4月～)

- 期間中の年度毎に、女性研究者比率について現状を把握するとともに、学内に周知することにより意識向上を図る。
- 女性研究者同士の交流の機会やネットワーク作りを推進する。

目 標 2 大学教員について教授職に占める女性の割合を11%以上、事務職員について管理職に占める女性の割合を14%以上とする。

【取組内容】(平成30年4月～)

- 大学の意思決定機関への女性の参画を推進することにより、管理職候補者の育成を図る。
- 女性活躍推進に関する意識啓発セミナー、キャリアアップやリーダー育成に関する研修を実施する。

目 標 3 仕事と生活の両立支援関連制度を周知し、利用しやすい環境を整備する。

【取組内容】(平成30年4月～)

- ホームページ、ニュースレター等を通じて、子どもの出生時における男性教職員の育児のための休暇及び育児休業等について周知・啓発を行い、積極的な利用を促す。
- 期間中の年度毎に、両立支援関連制度に関する利用状況を調査し、定期的に公表することにより意識向上を図るとともに、さらに利用しやすい環境となるよう整備を行う。

目 標 4 時間外労働の縮減を図る。

【取組内容】(平成30年4月～)

- 期間中の年度毎に、時間外労働時間数を定期的に取りまとめ、実態を把握し状況を公表することにより意識向上を図る。
- 時間外労働縮減の重要性について、会議等を通じて管理者及び職員に対し啓発を行う。
- 原則として週2回定時退勤日を設け、定時退勤の徹底に努める。

目 標 5 年次有給休暇の取得を促進する。

【対 策】(平成30年4月～)

- 期間中の年度毎に、年次有給休暇の取得状況について調査を行い、実態を把握するとともに、公表することにより意識向上を図る。
- ゴールデンウィーク、夏季休暇、年末年始などと組み合わせた休暇の取得を促進するなど、休暇を取得しやすい環境づくりに努め、取得の促進をはかる。

沿革

平成17年度	次世代育成支援事業主行動計画を策定・実施
平成18年度	本田雄一学長を委員長とする島根大学男女共同参画推進委員会の設置 島根大学男女共同参画推進ワーキンググループ (WG) の設置 島根大学男女共同参画基本理念・基本方針の決定
平成19年度	男女共同参画推進WGの活動開始 島根大学男女共同参画メールマガジン創刊 平成19年度文部科学省GPに医学部附属病院の女性医療職キャリア継続モデル事業「しなやかな女性医療職をめざして」が採択
10月	医学部附属病院女性スタッフ支援室の設置 「女性研究者支援モデル」WGの設置 (座長:横田綾子法文学部教授)
平成20年度	平成20年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」プログラムに、本学の事業案「地方から開く女性研究者の未来in島根」が採択 ～平成23年3月
7月	男女共同参画推進室設置 (室長:高安克己副学長) ～平成21年3月 旧男女共同参画推進WGを、男女共同参画推進専門委員会に改組
平成21年度	
4月	柴田均・理事/学術国際担当副学長が室長に就任 ～平成21年6月 男女共同参画推進室、総合理工学部2号館3階に移転
7月	澤アツ子 (前財団法人21世紀職業財団島根事務所長、前島根大学男女共同参画推進室客員教授) が、専任の新室長/教授として就任 ～平成24年3月
平成22年度	第1回外部評価委員会を開催 第2回外部評価委員会を開催 「第2回中国四国男女共同参画シンポジウム」を島根大学主催で開催
平成23年度	島根大学男女共同参画に関する全学意識調査アンケートを実施 第3回外部評価委員会を開催 『しまね子育て応援企業(こっころカンパニー)』に認定
平成24年度	
4月	塩飽邦憲 理事 (企画・総務担当) /副学長が室長に就任 ～平成27年3月 次世代育成支援事業主行動計画 (第3期) を策定 『子育てサポート企業』に認定され、認定マーク“くるみん”を取得
平成26年度	『しまね子育て応援企業(こっころカンパニー)』認定更新
平成27年度	
4月	藤田達朗 理事 (総務・労務担当) /副学長が室長に就任 河野美江 学長特別補佐 (男女共同参画担当) 就任 次世代育成支援事業主行動計画 (第4期) を策定 男女共同参画推進室「facebook」開設

平成28年度

- 4月 女性活躍推進のための事業主行動計画を策定
- 5月 松江市「まつえ男女共同参画推進宣言企業」に認定
ニュースレター「シマダティ」創刊
- 6月 女性研究者ネットワーク「ご縁ネット」設置
- 7月 松江市「まつえワーク・ライフ・バランス推進宣言」を共同宣言
松江市「まつえワーク・ライフ・バランス推進ネットワーク」加入
学長・理事による「イクボス宣言」
- 8月 島根県「しまね女性の活躍応援企業」に認定
- 10月 島根県「しまね働く女性きらめき応援会議」の構成員に
平成28年度プレミアムこころカンパニー島根県知事表彰を受賞

平成29年度

- 2月 平成28年度島根大学仕事と介護の両立実態に関するアンケートを実施
- 平成29年度科学技術振興機構受託事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に、
本学の事業「地域とともに課題を見つめ、キャリアをデザインする しまねガールズ・サイエンスプロジェクト」が採択
～平成31年3月
- 8月 夏期学童保育「しまだいキッズスクール」を実施
- 1月 平成29年度プレミアムこころカンパニー島根県知事表彰を受賞

平成30年度

- 4月 次世代育成支援事業主行動計画（第5期）を策定
女性活躍推進のための事業主行動計画（第2期）を策定
- 7月 出雲キャンパス内に学童保育施設「キッズクラブ太陽」を設置
- 8月 夏期学童保育「しまだいキッズスクール」を実施
- 12月 平成30年度プレミアムこころカンパニー島根県知事表彰を受賞

令和元年度

- 4月 『しまね子育て応援企業（こころカンパニー）』認定更新
- 6月 島根大学ダイバーシティ推進宣言
- 8月 夏期学童保育「しまだいキッズスクール」を実施
- 9月 文部科学省2019年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択
- 10月 男女共同参画推進室をダイバーシティ推進室に名称変更
- 11月 「第8回中国・四国地区男女共同参画推進連携会議」、「2019年度第1回中国・四国ブロック会議及びワークショップ（監事：徳島大学）」、「第11回中国四国地区男女共同参画シンポジウム」を島根大学主催で開催
SAN' IN ダイバーシティ推進ネットワークを設立
「SAN' INダイバーシティ推進ネットワークNews Letter」創刊
女子学生ネットワークSUN' IN Girls を結成
- 1月 ダイバーシティ推進室を法文学部棟4階に移転
ダイバーシティ推進室専任 澤田彩 特任助教就任
ダイバーシティ推進室「インスタグラム」を開設

I

事業概要・実施体制

令和2年度

- 6月 「異分野交流・連携プラットフォーム」を開設
ダイバーシティ推進のためのアンケート調査を実施
- 9月 島根大学ダイバーシティ推進ワーキンググループ細則を制定
- 10月 島根大学ダイバーシティ推進ワーキンググループを設置・活動開始
- 12月 「全国ダイバーシティネットワーク認定証」の交付
第1回外部評価委員会を開催
令和2年度 第1回SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク会議を開催
- 2月 拡大ダイバーシティ推進室会議を設置
- 3月 株式会社 今井書店および 株式会社 今井書店グループと「企業主導型保育事業による保育施設に関する協定書」を交わした
第1回拡大ダイバーシティ推進室会議を開催

II

実施内容一覧

III

ダイバーシティ
研究環境の整備強化

IV

女性教員の積極採用と
上位職登用

V

女性研究者の裾野拡大

VI

女性研究リーダー育成

資料

SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク 年次報告書
(令和元年11月1日～令和3年3月31日)

令和3年11月発行

【編集・発行】 国立大学法人島根大学ダイバーシティ推進室
〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL : 0852-32-6018 FAX : 0852-32-6833
E-mail : kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp



ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

SAN'IN ダイバーシティ
推進ネットワーク